

復興局調查彙報第十二號

地方計畫衛星都市及田園都市

復興局長官官房計畫課



始



145-96

序 言

ル 保 寄 贈 本

一 英國政府は千九百十七年七月特に行政機關組織に關する委員會を設置して
 大戰後に處すべき行政機關の改造に關する調査を爲さしめたのであるが、其の報
 告書は行政各部に於て一層調査の機能を尊重し、組織的なる調査研究を爲し、政策
 各部行政の方針決定に資する必要があることを痛論してあるが、(In the sphere of civil
 government the duty of investigation and thought, as preliminary to action, might with great advantage
 be more definitely recognised. It appears to us that adequate provision has not been made in the past
 for the organised acquisition of facts and information, and for the systematic application of
 thought, as preliminary to the settlement of policy and its subsequent administration.) 此の必要
 は我國に於て一層痛切である。殊に都市計畫行政に關しては綿密な組織的調査
 は必要不可欠前提條件を成すのである。

二 都市の發達膨脹に對し各般都市施設の必要は各國共通の問題であり、歐米各
 國の都市は夫々銳意之が解決に努めて、其の成績は大に見るべきものがある。我

大正
 15. 1. 18
 寄贈

都市計畫行政に於て今日當面して考慮を必要とし、又は困難を感ずる問題は概ね各國に於て經驗し論議されたものであり、又は何かしら切り抜けて來たものである。遅れ馳せに都市計畫施設に努め様とする我國は、殊に各國の都市計畫施設に學ぶべき所が多いのである。

二

三、都市計畫は世界共通の問題であるが故に、先年來國際都市計畫會議が開催される。會議の題材殊に會議の報告は各國都市計畫の第一人者が其の豊富なる經驗に基き深遠なる蘊蓄を傾けて意見を披瀝したもので、將に都市計畫に關する最新最高の理想抱負信念を表白するものである。従つて國際都市計畫會議に於ける報告書の紹介及翻譯は我國都市計畫關係者必讀の文字であると考へる。

四、國際都市計畫會議は一昨年は瑞典ゴテンブルグに、昨年は和蘭アムステルダムに、今年は米國紐育に開かれたのであるが、將來に於ては我國に開催されることもあらうと思ふ。又會議の題材が復興帝都の都市計畫に關することもあらうと思はれるし、我帝都復興事業の實績を詳細に世界の都市計畫界に紹介する様なことも期待せられるのである。此の意味からしても國際都市計畫會議に關する

本篇は復興事業並一般都市計畫關係者に興味あるものであると考へる。

五、本篇の第一部は千九百二十四年アムステルダムに開かれた國際都市計畫會議の報告概要、英國田園都市及都市計畫會員たる復興局土木部の岡田書記官の調査に成つたものである。第二部は其の前年ゴテンブルグに開かれた國際都市計畫會議に於ける報告二篇、英國保健省建築技監レーモンドアンウィン氏の『過大都市と田園都市』米國都市計畫の權威ジョンノーレン氏の『米國に於ける都市計畫の傾向』を、其の會議に出席された内務省都市計畫課の飯沼事務官の翻譯せられたものである。第一部及第二部を讀まれた人は直に現今の都市計畫の中心思想は各國共にハウードの田園都市の影響を受けた地方計畫論、星都市論に存することを發見せられるであらう。ハウードの思想を我國に應用して山林都市を主張する黒谷了太郎氏の意見は、亦我都市計畫關係者の必ず一讀すべきものである。大阪市長關博士は名著『住宅問題と都市計畫』に本書に付て、『アパートメント理想論等許り聽く我國に於て、都市集中に對し手強き攻撃を加へた此著述は空谷に響音を聞くの喜を禁じ得なかつた』と謂つて居られる。黒谷氏は先年愛知地方委

三

員會の幹事とし、帝都復興院の囑託として都市計畫行政に參畫して居られたことがある。

四

本篇は大正十一年五月名古屋地方委員會内青年都市研究會から小冊子として印刷されたが、尙一層廣く都市計畫關係者に讀まれる機會を作る必要があると考へるので本篇に加へた。(尙都市計畫の最近傾向を研究せんとする人は、調査彙報第七號のフォードの地方計畫及大都市計畫第八號の「紐育及其附近の地方計畫第十號の「ホイットン地方地域制論」を精讀せられる必要がある。)

地方計畫及大都市計畫

目次

地方計畫一九二四年アムステルダムに於ける國際都市計畫會議の報告梗概	
第一 緒言	一
第二 一般論	二
一 地方計畫及地方計畫の必要	二
二 地方計畫に於ける衛星都市の地位	三
第三 地方計畫に關する技術論	三
一 地方計畫の準備的調査	三
二 地方計畫に於ける地域制	六
三 紐育市及其の近郊の地方計畫	六
第四 地方計畫に關する法制論	七

第五 決議事項	五
田園都市と過大都市	五
米國に於ける都市計畫の傾向	五
第一 不良住宅は不平の因	八六
第二 「出」大都市	八九
第三 田園都市建設方法	九三
第四 オハイオ州メリーモント	九六
山林都市(林間都市)	一〇一

地方計畫

一九二四年アムステルダムに於ける
國際都市計畫會議の報告梗概

地方計畫

一九二四年アムステルダムに於ける國際都市計畫會議の報告梗概

岡田復興局書記官稿



第一 緒言

一九二四年七月和蘭アムステルダムに於て倫敦に本部を有する都市計畫及田園都市國際聯合會の主催で、都市計畫に關する國際會議が開かれて、各國の政府並に大小の都市其他私設團體等の代表者が、凡そ二十八ヶ國から參加した。會議の主題は、(一)地方計畫(二)公園、公園系統並に娛樂休養施設と言ふのであつたが、就中第一については、二日間に亘つて各國の代表者の報告及討論が行はれて、會議の主要部分が之の爲めに費された。其の報告を通讀すると、地方計畫に關する各國の實際的施設並に最近の傾向が大體窺はれ得る。惟ふに地方計畫の問題は都市計

畫の上に於ては、寧ろ一の新規なる題目であつて、未だ必ずしも充分研究論議し盡されてあるとは言ひ得ない。然し我國の都市計畫にとつても、都市の發展膨脹に伴つて殆んど一都市の行政區域内に限られたる現在の都市計畫——換言すれば舊市街の市區改正を中心とする現在の都市計畫は、總て當然此の地方計畫に迄進まねばならぬものと思ふ。此の點から觀て本會議の結果は、我國の都市計畫の事業に當るものにとつて好個の參考資料であると考へて、茲に其の梗概を紹介するとした。

地方計畫に關する會議は之を三部に分けて行はれた。即ち第一部一般論、第二部技術に關する問題、第三部法制に關する問題である。

第二 一般論

一 地方計畫及地方計畫の必要

一、第一部の會議に於ては和蘭都市計畫協會副會長グランブレ、モリエールの「近代都市に就て」、英國衛生省住宅建築主任技師レーモンド、アンウインの「地方計畫の

必要に就て」、同ウエルウイン田園都市財務支配人バードムの「地方計畫に於ける衛星都市の發達」、ハーグ都市計畫及住宅局長バツカ、シユットの「和蘭に於ける地方計畫の必要」等の報告があつて、之に續いて討論が行はれた。

一、法律的乃至技術的の見地を暫らく離れて、一體都市計畫殊に地方計畫とは近代文明に於て、如何なる意味を有するものであるかと言ふことに答へて、モリエールは、それは文化と自然との融合である、都市と田園との結合であると言ふ。一體都市は文化の搖籃と謂はるゝものであるが、近代の都市は都市本來の意義に包含せらるゝ理想の方面を否定して、經濟的動機に依つて一切が指導せらるゝに至つた。換言すれば生産が一切を支配するに至つた。若し理想ある社會を「古典的」と言ふに對して、經濟に依つて支配せらるゝ社會を「現代的」と言ふならば、近代の都市は正に現代的である。併し現代的も今や其の終焉に近づきつゝある。何となれば其の自然的機能は失はれ、其の粘着力は崩壊してしまつたからである。昔は都市生活が國民一般の憧憬の的であつたが、今は大都市の市民は漸く都市生活の百弊に堪え得られないで、之を脱却することを念とするに至

つた。最早現代的の光は薄れて、今や之に代るに理想の黎明が来らんとしつゝある。此の仕事を爲すものが實に都市計畫である。地方計畫である。地方計畫は都市の裡に自然を導くと共に、群衆の潮流を秩序正しく田園に疏通する役目を爲すものである。此の點に於て郊外地域の都市計畫は、差當り最も大切な問題とせねばならぬ。

一、然らば近代の大都市は吾等の生活の上に如何なる弊害を及ぼしつゝあるか。それには先づ近代都市發達の狀況を一瞥せねばならぬ。アンウインは述べて言ふ。過去に於ける文明の各段階は常に都市と相關聯して居つた。何となれば文明は多くの人の手と頭とが共同の目的の爲めに働くに依つて生るゝものであるからである。斯くして文明の進むと共に都市及都市の生活が發達して來つたが、それが現代に至つて絶頂に達した。即ち米國に於ては一八二〇年に人口八千以上の都市の住民は僅かに四、八パーセントであつたものが、其の後恰も百年にして一億六百萬の總人口の四三、八パーセントに上るに至つた。又英國に於ては今世紀の初めには全人口の半は農村の住民であつたが、今日にては

全英人の四人に付いて三人は都市に生活することゝなつた。斯くの如き都會化の驚くべき趨勢は獨逸、日本、其の他の各國に於ても亦同様である。是等の人口の塊團が恰も群衆の如く集まつて、適當の計畫も豫見もなく、唯自己の欲する富と權力と並に社會的地位とを獲得せんが爲めに、其の必要なる建物を建築し、又其の建物を利用する爲めの街路を設けて出來上つたものが現代の都市である。従つて其の結果や知るべしである。

一、之を都市其のものゝ側から觀ると、大なる人口を維持する爲めには、工業並に商業の發達したる組織を必要とすることは言を俟たない。加之大都市の生存者其のものゝ爲めには水道、瓦斯、電氣、電車、乗合自動車、地下鐵道、エレヴェーター等の進歩したるサービスがなくてはならぬ。然し是等のものが次第に發達すると、之と同時に次第に複雑となり維持が困難となつて、遂に之を利用して生活する者の生活費を著しく増加せしむる結果となる。現在に於ては生活必需品の分配費が増加した爲めに、動もすれば一方には吾等の需要するものを生産する農民が破産に瀕しつゝあるに拘らず、他方には之を需要する都會人が餓死せ

んとしつゝある状態を見る有様である。吾等の文明は他の事柄に於けるよりも格別に各種の巧妙なる機械的設備を利用する能力を示し、人間の勞働力を増大する方法を講じて都市人口の増加を圖つたけれ共、それが今は悲しくも此の大なる群衆に立派な社會組織を與へて、都市をして便利にして且つ能率の高い美しい住居とする力がないことを示すに至つた。

一、又之を都市を構成する各人の側から觀ると、都市は結局大きな共同企業であるから、他の企業に於けるが如く個人は全體の、又全體は個人の有益なる共同行為の恩恵に頼らねばならぬものである。若し増加する多數の共同行為が都市の共同生活の價値を高め、範圍を廣むると共に、都市其のものも亦是等の個人に對して、慰安と生活の機會とを與ふることが出来るならば、都市は安全なるを得るけれ共、萬一其の増加する人々が、都市の共同生活に何物をも寄與するを得ざるに至るか、若くは都市が其の市民に對して、其の生活を維持し且つ之を高むるの能力を失ふに至るならば、危險が迫つたのである。都市の發達が其の度を超えたのであつて、遅かれ早かれ壊滅に進まねばならぬ。

現代の多くの都市が全く無方針の發達を爲し來つたこと、假令方針があつたにせよ、後に至つて都市の四周に出鱈目の添加を爲し來つたことは、即ち都市自ら其の壊滅の域に進みつゝあることを示すものである。それは都市の交通量を調査することに依つて直ちに明瞭である。市民を最も悩ます所の都市の雜間は交通より起るものであるが、其の原因は要するに人と物とが都市の内部に於て、適當の場所に配置されて居らぬ爲めである。而もそれを適當に配置して整理せんとせずして、却て交通機關を悪用して不整理を繼續せんとする努力に起因するものである。かるが故に根本的の計畫を行はずして、一の交通機關を新設するが如き場合は、現在の混雜を緩和せざるのみならず、却つて之を増嵩するの結果となるものである。最近の調査に依れば倫敦に於ては、毎日都心地に集注する者が約三百萬に上る。勞働其の他の業務に従事する全數の六〇パーセントは、住居と就業所とを異にする。或區域に於ては業務の爲め日々他の區域に出づる者と他の區域より入る者との數が相匹敵して居ると言ふ有様である。斯くの如き状態であるが故に倫敦に於ける市民の交通は、一人平均年四百回の

多きに上つて居る。紐育に在りては之が五百回を超えて居る。而して之は實に都市に於ける住宅、商業、工業等が適當に配列されて居らぬ爲めてあつて、且つ同時に百弊の根源となるものである。

一、斯くの如き都市の混雜と偶然なる發達とを防止する手段として從來採られたるものに二つある。一は市民をしてより敏速に、且つより屢々交通を可能ならしむる爲めに、交通手段を改善整備せしむることであつて、他の一はより多數の市民を容るべく建築物の密度及高さを増すことである。然し此等の方法は孰れも失敗に終つた。其の結果は都市の雜沓を却つて一層増大せしむることゝなつた。即ち交通機關の増設は、人口密度の大なる部分より他の部分に人々を運び去ることをしないで、却つて密度の大なる都心地に新たなる群衆を運び來る役目を爲すことゝなり、又高層の建築物を市の中央部に密集せしむることは、都市の交通量を幾何級數的に増大せしむることゝなつて、例へば米國の大都市に於ける商業地域の場合に就いて言へば、平均五階の建築物の場合に於ける前面街路の幅員は八六呎で充分であつたに拘はらず、十階になれば一四四呎、二十

階となれば二四一呎の幅員の街路を有するに非ざれば到底交通量の増加に應ずることが出來ぬと言ふ結果を示した。

一、果して然らば、斯くの如き都市の發達に對する救濟策は何であるか、アンウインは結論を與へてそれは人口の都市集中の勢を全く停むるか、然らずんば人口と産業とのより良き配置を得しむる爲めに地方計畫を行ふことであらねばならぬと主張する。

一、地方計畫の輪廓を書いてアンウインは言ふ。一都市又は一都市を中心としたる一地方の計畫を樹つるに方つて、個人生活と共に社會的共同生活をも考へて、其の生活に應ずるセンター若は補助的センターを設け、自由の空地を保有し、低廉なる生産費と大なる能率とを以て産業を經營することを得べき便宜を與へ、又勞働にも産業にも、將又娛樂にも都合が宜く、且つ學校其の他の教化機關、市場、店舗等を具備せる住居地を設けることは、疑ひもなく都市計畫家の任務である。若し斯かる場所が新たに設けられたならば、忽ちにして多くの人口が之に集中するに至るであらう。然し都市計畫家の社會的任務は斯る分りきつたこと

のみてはない。惟ふに人間は複雑なる動物であつて、實際的若くは經濟的動機に動かさるゝことも多いが、同時に亦故郷を愛し、祖國を愛し、美しき自然の地を愛するが如く、多くの微妙なる感情若は嗜好に依つて左右せらるゝことも決して尠くない。都市計畫家の一の重要な職責は實に此の點に在るのである。例へば何處迄行くも一直線の街路に面する或屋敷、若は中心もなければ又他と區劃もされない大都市内の一區域の如きは、人の感情を鼓舞するものでもなければ、又市民の愛郷心を刺戟するものでもない。即ち何等個性のない——換言すれば確實に捕捉することの出来ないものに、熱烈なる情愛を有つと言ふことは容易に出來難いことである。故に都市の大なる人口に對して一の社會的組織を與へ、共同的感情を有たしめんとするには、都市計畫若は地方計畫の形態の下に此の人口に組織を與へねばならぬ。而して大なる組織は小なる組織の團結せるものであるが如く、大都市も亦其の周圍に對して偶然なる發展を續くるのでなくして、市民生活に適當の大さであつて、而して生活、事業、教育、娛樂の必要を滿すに足る設備を持つて居る郊外、衛星都市、若は田園都市の如く適當に計畫せ

られたる新地域の添加に俟つものでなければならぬ。而して其の中心と郊外と衛星都市との間は、將來永久に保存せらるべき自由空地の帶に依つて、適當の間隔が保たれてあらねばならぬ。

一、斯くの如き地方計畫の基調は何であるかと言ふに、それは社會生活ソサエティヤル・ライフの分散である。人々は最近に至る迄自分の都市に於ける貨物の輻輳と、交通の頻繁とを以て寧ろ他に誇示すべき材料として、是等の不必要なる移動が如何に時と勞力と富とを濫費し、人間の精力を消磨せしむるものであるかに氣付かなかつた。都市の無計畫なる發展若は計畫ある都市に於ける無秩序なる郊外の膨脹は、遂に小にしては無數の建築物、大にしては都市の各部を不適當なる配置にしてしまつたので、都市内部に於ける人と物との交通が斯くの如く増嵩し來たのであることを忘れて居る。之は宜しく根本に溯つて都市生活の地方分權を行ひ、人と物とをして適當の場所に在らしむるに努むべきである。

一、其の具體的方法に至つては、固り各都市の特質と條件とに依るべきものであつて、概論するを容さないが、例へばアムステルダムAmsterdamの如く人為的地盤の上に建

設せられたる都市であつて、従つて建築物も高價なる基礎の上に建てらるゝが如き場合に在つては、他の都市に比較して勢ひ都心地を集中的ならしめざるを得ないが、それでも都市心の大きさを制限して、何れの區域よりも容易に周圍の自由空地に行き得ることにせねばならぬ。又其の附近に高燥にして健康に適する住居地域が乏しき如き場合に在つては、之を放任すれば忽ちにして各自の氣隨なる計畫に依つて、最も不經濟なる利用に委せらるゝものであるから、地方計畫の必要は一層大なる譯であつて、此の特別なる健康地は之を極度に利用することを怠つてはならない。

一、都會生活の地方分權に伴つて起る問題の第一は、母市と母市の權力の何等及ぶことなき衛星都市との關係である。母市の手に於て管轄するを適當とする事項も素より尠くないけれ共、餘りに廣汎なる區域殊に無數の小都市の一團を、母市の發達を第一義とする機關に依つて官僚的に支配せんとするは好ましからぬことであつて、且つ又決して各小都市の市民の公共心、愛郷心を涵養する所以の途でない。寧ろ各小都市限りの地方的利害に關する事項は、之を各自の職分

に譲ると共に、交通給水の如き全區域を總括するが、より經濟にして且つ效果多き問題は、各小都市の代表者をも加ふる中央の聯合的機關の手に依つて行はるべきである。

二 地方計畫上に於ける衛星都市の地位

一、上述せる如く地方計畫とは畢竟するに、都市生活の地方分權に依つて近代の大都市生活から來る各種の弊害から免れんとするものであるからして、之が具體的實行論として地方計畫と衛星都市とは離るべからざる關係に在る。殊に英國に於ては地方計畫即ち衛星都市の問題であると看られて居るかの觀がある。ボードムの所論は最も良く此の點を説明して居る。

一、ボードムの述ぶる所に依れば、衛星都市サテライト・タウンの言葉を初めて用ゐたのは、米國のジャーナル、テラーが米國の工業都市に關する論文に於てであると言ふ。是等論文は一九一五年衛星都市の標題で纏められて、ナショナル、ユニシナル、リーグ叢書の一書となつた。テラーは米國の工業家が大都市の密集状態より脱れ

んが爲めに、シカゴ、セントルイス其の他の大都市の周圍に、主として雇傭者の爲めに、工業的サブバークを設けることを述べたのであつたが、彼は是等の製造工業家の私設都會を名付けて衛星都市と呼んだのであつた。然し、今日都市計畫殊に地方計畫に關聯して此の言葉を用ふるは、大戰後英國に於て田園都市運動の復活の議論に基いて居る。蓋し、今日の所謂輿論は都會人の輿論に外ならぬものであつて、政治的の實力も亦都會人の掌の裡に在るのであるから、田園都市建設の提議を人氣あらしめん爲めには、大都市の支配階級の人氣に投ずる方法を選ぶ必要上、田園都市を單に田園都市と呼ぶことなしに、或大都市の勢力の下に在る衛星都市と呼んだのであつた。田園都市と衛星都市とは本來必ずしも同意義ではない。又今日此の二つの言葉の意義を區別せんと苦心する者もある。然し眞の都市計畫、即ち地方計畫の要素としての衛星都市は、今日吾等の知つて居る都市の最も完備したものであらねばならぬから、之を呼ぶに田園都市と言ふも敢て差支へない譯である。然らば衛星都市とは何ぞやと言ふにバードムは定義して、それは經濟的、社會的乃至文化的に現代都市の特質を具有する獨立

の有機的生活を營む都市的單位であるが、而も或る他の大都市の派生物であつて、之に従屬的關係の立つものであるとして居る。都市であるが故に村落を包含しない。又他の都市より獨立するものであるが故に、郊外とは異ると言つて居る。

一、即ち衛星都市の特質の一は、或る他の都市に従屬的關係に立つことである。其の從屬的内容は必ずしも一定するを要しないが、二者が地理的に一つとなり若くは互に接觸するに於ては最早衛星と言ふべきではない。兩者の間には永久に之を分離すべき農業地帯の存在することが必要である。而して其の距離は場合に依つて異にすべきも、少くも半哩、多くも半時間程を踰えてはならない。否半哩の距離に於ては恐らく都市の地方分権は名のみにして其の實なかるべく、先づ通常母市と衛星都市との距離は五、六哩より接近すべきものではないであらう。其の特質の二は固有の社交、商業、工業及住居の中心を有することである。其の現實の内容は如何にもあれ、是等各種の要素を具ふることである。例へば如何に他のものに不適當の場所とは言へ、工業のみの都市であつてはなら

ぬ。又同時に如何に工業に不適當の場所でもあれ、全然工業を缺く都市であつてはならぬ。單純なる工業都市若は住居都市として計畫せられたるに於ては、之を適當なる意味の衛星都市と呼ぶべきではない。而して其の大きさは嚴密なる限度を與ふることは出来ないけれども、小にして人口二萬、大にして人口十萬を越ゆべきではないであらう。其の特質の三は、毎市及衛星都市相互の間に組合的の共同組織あることである。此の共同組織に依つて教育上よりも、社交上よりも一般文化の上よりも、將又經濟的利便の上よりも、單一なる都市の到底享受することの出来ない利益を享け得らるゝものである。例へば各自の獨力を以てしては之を維持することが困難であるにしても、是等の都市が合同すれば高等の教育機關の設備の如きも、必ずしも難事業ではない。

一、衛星都市を建設するには如何なる場所を選ぶべきであるか。既存の小都會を採るべきであるか、それとも全然新規の適當なる場所を可とするか。バードムは之に答へて、新規の場所に建設するが衛星都市建設の目的を達するに便宜であるとして居る。既存の小都會を基礎とする場合には、何うしても既存の利害

關係に束縛せらるゝことを免れざる結果として、理想の自由なる表現を容さない。或は既存の小都市を中心として衛星都市の建設を圖るべしと主張する者もあるが、舊勢力を代表する市民は兎角變化を欲せざる傾向を有するが爲めに結局都市の中心として甚だ不適當なるものとなる結果に陥る虞がある。舊都市は寧ろ其の儘にして置いて自然の發達に委すべきである。

一、次に衛星都市建設の實際的方法は如何。バードムに従へば此の問題に關しては英國の實例如何に拘らず、全然私的企業に一任すべきものではない。固り事業其のものは大體私的企業の性質に屬するものであつて、兎角經濟を無視せんとする傾きある官僚主義を用ふべき場合ではないが、然し其の設立と發達とに關して國家若は公共團體の統制が必要である。英國に於ける二つの衛星都市——レッチウオース及ウエルキン——は純然たる私的企業として成立したものであつて、唯會社は任意に利益の分配を制限して居るに過ぎない。又ウエルキン田園都市會社は政府より資金を借入れたる爲め、之に關する政府の監督を受くるも、監督其のものが事業にとつて有利なるや甚だ疑はしい状態に在るも、

若し衛星都市建設が好まじきものなりとせば、之を監督助成する爲めに一の中央機關を設け、廣汎なる財政上の權能をも與ふべきである。

一、前述のレッチウオース及ウエルキンは、共に大倫敦の衛星都市である。前者は人も知る如く田園都市最初の試みとして、人口三萬五千の新都市を倫敦より三十二哩を隔てた田舎に建設せんとしたものであつて、事實上當初より衛星都市として建設されたものではないが、從來の發達の經過と將來の使命とは、正に大倫敦の一衛星都市である。之に反してウエルキンは當初より其の目的を以て倫敦より二十哩を隔てた田舎に人口四萬乃至五萬の衛星都市を建設せん爲めに生れたものである。然し大倫敦に對する衛星都市は此の二つに限らるゝものではない。若し將來大倫敦の發展に伴つて更に第三、第四の衛星都市を建設せんとするならば、倫敦の四周決して其の場所に乏しくない。バードム彼自身の研究に依れば、舊村落を破壊することもなく、又田園の風光を甚だしく毀損することもなくして、倫敦より四十哩以内に尙莫大なる人口を收容し得べき餘地を存して居る。即ち地方計畫の方針に基いて之を行ふとすれば現在の小都市

を別として尙二十八の衛星都市を建設することが出来る。而して各都市間には夫々適當なる程度の農耕地帯を保存することも出来、又大倫敦の人口か其の四周に突進する現在の趨勢を阻止することも出来る。故に今日の急務は一日も早くロンドン及其の附近に對する地方計畫を定めて、適當なる場所には人口の新中心地を設ける設備を施すと共に、不適當なる場所に對しては一切の建築を禁止すべきである。而して漸次此の方法を更に他の大都市に及ぼすべきである。

一、斯く論じたる後バードムは更に進んで英國に於ける地方計畫の趨勢を實例に就いて述べて居る。其の第一は南ウエルス炭坑地方に關するものである。一九二〇年政府は南ウエルス炭坑地方面積約一千平方哩に於て、一九一九年の住宅法の下に、國庫の補助に依り建築せらるべき住宅の配置に關する調査の爲め一の委員會を設けた。委員會は調査研究の上一九二一年一の報告書を製して(一)同地方に對する地方計畫の準備の爲め地方都市計畫委員會を設置すべきこと(二)新に建築すべき住宅は數地方に集中すべく、殊に模範的住居都市を

建設すべきことを提議した。其の所謂住居都市とは人口約三萬を限度とする純然たる住居地であつて、市民は各種の産業に従事するものより成るべきこと、都市の周圍に永久の農耕地帯を存すべきこと、市民の特權と責任とを自覺せしむるに足るべき、相當程度の品格を有するシヴィックセンターを持つべきこと、而して斯かる都市を建設すべき場所は鐵道の便を有し、且つ各種の産業を有する地方との交通の便利なるべき土地たることを要するものであるとして居る。其の第二はドンカスター地方計畫である。同計畫はドンカスター市を中心とする半徑十哩以内の炭坑地方に於ける地方團體より成る都市計畫聯合委員會の委嘱に依つて、一九二二年アパークロムピエ教授及ター、エツチ、ジョンソンの計畫したるものであつて、其の報告に依ればドンカスター市以外の新都會は、人口一萬五千乃至二萬の程度に止むべきである。ドンカスター市と是等の衛星小都市の關係は、日常生活の手段は小都市内に於て充足せらるゝも、一流の劇場、音樂堂、其他の大都市的享樂手段は、之を悉く母市ドンカスターの施設に俟つべきである。新都市はドンカスターの飛地フライング・フィールドたる郊外に非ずして、夫々の完全

なる單一體として取扱はるべきものであるとして居る。

第三 地方計畫に關する技術論

一、第二部の會議は地方計畫に關する技術上の問題を取扱つたものであつて、(一)中心都市の既建築地域を包含する一地方の準備調査、英國リバプール大學教授アベルクロンピエ、(二)地方計畫並商業、工業及住民地域の配置、紐育都市計畫技術長トマス、アダムス、(三)地方計畫に於ける下水道、巴里セイヌ水道局長サンテナ、(四)大都市に於ける公園、ハンブルヒ建築技術長シューマツヘル、(五)紐育及其の近郊に於ける地方計畫、紐育市都市計畫顧問技師シユルトレフ、(六)ルール炭坑地方殖民聯合理事シユミット等の報告があり、續いて是等に關する討議が行はれたが、就中地方計畫に關する一般問題を取扱つたのは、二及五である。

一 地方計畫の準備的調査

一、アパーベルクロンピエ教授は、地方的實查は英國に於ては必ずしも地方計畫の準備

備の爲めに着手されたものではなかつたが、其の結果に於ては地方計畫運動を進むるに與つて大に力あつたと述べて居る。即ち世界大戰の開始せらるゝや、戰爭に参加することの出来ぬ建築家、測量技師等は、政府の熱心なる後援の下に一の協會を組織して、地方團體の助力に依つて大ロンドン、ランカシャー其の他の諸地方の實地調査を行つたが、斯くして完成された先覺的事業こそ、抑も英國に於て地方計畫の必要を一般が理解するに至つた嚆矢である。之に依つて先づ第一の七十の地方團體を網羅するマンチエスター地方地方計畫委員會が生まれ、續いて南ウエールス炭坑地方測量委員會、リバープール地方地方協會が相亞て組織せられ、更に次の時期には地方計畫と直接に關連して地方的實査が行はるゝ機運に向つた。即ちドンカスター地方地方計畫、ウエスト、ミッドルセツクス地方計畫、イースト、ケント地方計畫、シェツプフィールド市測量等の如き是である。

一、調査の項目は種々に岐れる。第一に必要なことは言ふ迄もなく地理的調査である。就中地質の調査が最も肝要であつて、地表地下に關する研究の外農林

業に關する各種の土壤調査も必要である。其他風雨に關する事項氣候の相異、土地の高低及之に伴ふ水流の方向、濕地、平地の調査並に自然的及農業的植物分布状態等にも及ぶべきである。第二は歴史的調査にして一地方に於ける歴史的發達の狀況並に各時代に於ける人口分布の状態等を明かにすべきである。第三産業調査も亦豫備的調査として最も重要な事項にして、他の事項に比較して地方團體等の有する資料の乏しき點よりも最も重視すべきものである。本調査に於ては重工業、輕工業等其の他各種工業の位置を種類別に示し、尙之が従業者數を圖示し、又各種産業の一地域に對する集中若は分散の傾向をも明かにすべきである。第四は人口及住宅調査である。人口調査は將來の人口分布に關する方策を樹つる爲めに、現在人口の密度を調査することである。例せば都心地に於ける密集状態を改むるには、單純に都心地の區域を擴張すべきであるか、將又農耕地を以て母市より隔離せられたる衛星都市を建設すべきであるかと言ふが如きである。之に伴つて又住宅に關する調査を行つて借家契約の期間圖を作り、且つ從來住宅問題を支配したる原因を明かにすべきである。第

五は衛生調査である。人口の密度、住宅と工場との比例、住宅の構造の型式等に關する調査は、環境と衛生との關係の密接なることを示し得る。又死亡率の外、幼兒死亡率、特殊疫病に因る死亡も調査すべきである。若し又進んで衛生的都市として必要な一定の標準を示すことが出来れば、將來の住宅問題並に都市人口問題の基礎ともなり得べきであらう。

一、第六の調査要目は交通問題である。之は最も調査し易くして且つ地方的實査上最も興味ある事項である。而して其の結果は種々の方面に利用し得る。例せば道路上の車馬の交通量は道路の交通障害ともなり、平均交通量ともなり、又特殊の交通量をも説明することが出来る。又人的交通の點よりすれば、距離と時間との兩面よりするの必要上、同時圖に依つて一の中心より同時地域をなし、又は交通の度數を示すことは、人口をより廣く分散し又は衛星都市を發達せしむるに缺くべからざる資料である。第七は空地調査である。現存自由空地を調査して、其の面積と之を利用し得べき人口並に之に到るべき交通圖を示すことは、一般の興味を喚起するに有效なる方法である。更に自由空地を利用方法

の別に從つて自然地造成公園、運動場、遊戯場又は兒童小公園等に分類すること並に私有空地を調査するが如きことも有益である。第八に農業の状態を調査することも必要である。即ち之に依つて如何なる地域を農耕地帯、野菜園又は賃借庭園レタ、ガーデンとして保存すべきであるかを知ることが出来る。第九は都市の公營事業に關する調査である。多くの都市に於ては水道、電氣、下水等の外圖書館、消防署等の事業を公營するも、是等の各都市の事業を聯合して全地域に及ぼすときは經濟的のみならず、事業其のものゝ面目も一新せしむることを得る場合が尠くない。水道には合同せるもの多きも下水には然らざる結果、餘りに小規模にして且つ出費多きものが尠くない。第十は土地の利用狀態の調査である。其の方法は二つに岐れて一は積極的に土地利用者に關する一切の報告を集むることゝなり、(地表利用)他は其の地方の自然的發達の結果利用上種々の地域に分れたる狀況を圖示することゝなる(自然的地域ナチュラルゾーン)。此の二方法の併用に依つて地方調査の準備すべき一地方の斷面的狀況の概略が描き出される譯である。

一、斯くの如くして調査されたる結果は二つの目的に利用せらるべきである。第

一は専門家が計畫を樹つるの資料とすべきである。蓋し専門家には其の地方の見世物的資料を要するのでもなく、又密集生活と死亡率との關係を證據立てる如きことを必要とするのでもないが、一都市若は一地域の全地域に對する職能を明かにすることに依つて、思ひも寄らぬ解答を與ふるもあるべく或は又數多の地方團體を包括する地方全般を急速に熟知する方便ともなるからである。又第二は宣傳に利用することである。宣傳に依つて關係委員又は議員等の如きものをして計畫を是認せしむるのみならず、同時に一般市民を教育し、注意を喚起せしめねば、専門家も何事も爲し得ないことは今更茲に詳言を俟たない譯である。

二 地方計畫に於ける地域制

一、アダムス從にへば地方計畫の目的の一は、計畫區域内に於ける土地利用の増進を促すことであつて、他は之が爲めに交通手段の最高の能率を擧ぐることにある。換言すれば地方計畫とは、主として土地の利用並に發達に規律を設くるこ

とてあると言つて居る。而して計畫區域内の土地の利用は結局(一)商業及工業(二)住居(三)娯樂休養(四)農業の四に岐れるが、アダムスの主として取扱つた事項は其の一及二である。

一、地方計畫に於て、商業、工業及住居の地域を設くる理由を説明して、アダムス氏は次の三つを主張して居る。一は計畫區域内に於ける自然的、經濟的並に社會的條件を検討するときは、何れの部分が特定目的の爲めに最も適合せるかが判明するものであるが、地域の決定は則ち公共團體若は土地所有者に對して、此の最も適合せる目的に従つて利用すべきことを勸奨するものである。二は都市の偶然なる發達は都市生活に大なる損失と不便とを與ふるものであるが、地方計畫は都市の偶然なる發達、殊に土地利用に關する偶然の發達を制限して、其の損失を防止せんとするものである。三は都市が發達して商工業が之に集中することゝなると、都市生活者の住居と勞務の場所とが分離せらるゝことゝなつて、時間を浪費するばかりでなく、能率をも害するに至るものであるが、斯かる弊害を出來得る限り少なからしめんとするには、將來の膨脹に對して包括的の計畫

を準備せねばならぬ。即ちそれには商業、工業及住居の爲めの地域及是等の一
 の地域に對する他の地域の關係、及道路、鐵道並に水運の關係等に對する計畫を
 樹つることが必要である。米國各州の模範法に於て地域制の目的を述べて、斯
 かる(地域制に關する)規程は街路の雜沓を減少し、火災其の他の危険を保護し、衛
 生其の他の一般の福利を増進し、適當の日光及空氣を與へ、家屋の密集を防止し、人
 口の不相當なる集中を避け、交通、學校、公園其の他の公共的施設の利便を與ふる
 ことを目的とすべきものである。又斯かる規程は特に一の區域の特長並に其
 の一定の用途に對する特殊の適應性を考慮し、又建物の價値を保存すると共に
 土地の最も適應したる利用を獎勵する見地より定めらるべきものである」と規
 程されてあることは、此の見地から出て居るものと考へられる。

一、故に地域制を考ふるに當つては、地方計畫の凡ての問題——計畫區域内の將來の
 發達の條件、過去の狀勢及未來の可能性等の凡ての方面に亘つて考慮せねばな
 らぬ。然しそれにも拘らず都會地は其の發達に伴つて變化するものであるか
 ら、地域制も従つて永久性を有するものではない。其の利用狀態の變化に伴つ

て變更すべきものである。

一、地域制を設定すべき機會は、勿論未建築地により多く大であるけれ共、眞に有效
 なる地域制を設定するには、既建築地と未建築地とを併て包括するに非ざれば
 不可能である。而して未建築地に對する地域制は既定的と言ふよりも寧ろ建
 設的であつて、既建築地に對する地域制は之と正反對である。前者は建築の行は
 るゝに先つて包括的計畫との下に建物の密度、高さ、交通手段、公共施設、娛樂休養
 並に教育施設等に對する關係を考慮して、建築並に空地としての土地の利用方
 法を定むるに、反して、後者は現在の利用方法に對する變更を防止し、若は變更に
 對する制限を定むるものである。地域制に關しては米國法は英國の都市計畫
 法の如く建設的ではない。米國に於ては建築に先立つて土地利用の計畫を定
 むることは甚だ困難であつて、之を爲す適當の時期は、土地を區劃して建築敷地
 とした時であるとせられて居る。併し、之は都市計畫の未だ進歩せざるが爲
 めである。ロバート・ホイットン氏は此の點に關して次の様に述べて居る。「從
 來米國に於ては主として既成都市に關する計畫のみを問題としたるも、之は米

國の大なる誤りにして、街路も公園も地域も一の全體の計畫の部分たるべきものである。單なる一部の計畫は經濟的に非ざるのみならず、多くの場合實行不可能である。公私の利害關係の克く調和し得るは、全地域に對する包括的計畫に依つて初めて達せらるゝのである」と。英國に於ては部分的計畫が既開發地の擴張若は相互の連絡に關係なく未開發地に對して行はれ、米國に於ては法律の缺陷の爲め、未建築地に對する計畫は實行不可能にして、地域制は單に既開發地にして且つ其の多くは既建築地の場合にのみ限局せられて居る。此の双方の場合の缺點は主として土地所有者の利益を保護せんとするに基因するものと思はれる。

一、地域制は又其の地方の發達の傾向——商工業並に住居地の發達が集中的傾向を有するや、若は之に反するやを考慮せなければならぬ。而して集中する利益が過度の密集の爲めに損せられざらんとするには、分散を過度に奨励するが如き計畫を樹てねばならぬのである。紐育地方計畫の如きは即ち過度にして且つ經濟的にも亦健全なるに拘らず、益々集中的ならんとするに鑑みて、此の原因の

探究に努めて居るが、同市に於ては建築物の構造を道路の如き交通用空地面積に出来る丈け比例せしめ、若し比例するを得ざる場合は、地下道若は高架道を設けて街路面積の増加を計ることを努めて、此の兩者を調和せんとして居る。同市の如く良港を控ゆる大都市に於て、其の臨港附近地が集中的傾向を有することは、全く已むを得ざる現象であつて、地域制は唯宜しく港灣としての機能を充分に發揮せしむる様に決定せられねばならぬ。即ち交通設備を完全にし、又臨港地附近には住宅の建築を避け、重工業の經營を奨励し商業地域に可及的接近して住居地域を確保して、以て港灣の充分なる發達を圖る如く計畫せられねばならぬ。更に詳言すれば、重工業地域には偏く鐵道、水運並に幹線たるに相應する副員構造を有する道路交通の便を與ふると共に健康地にして日常生活上の便宜も備り且つ相當の娛樂休養の手段をも有する住居地域と、高速度交通機關を以て連絡せられねばならぬ。而して重工業地域に於ける交通設備には、近年俄かに發達したる貨物自動車の使用を看過することの出来ぬは言を俟たざる所である。併し之に伴つて他面には、臨港地附近に於ける交通の分散的傾向を

促進することも急務であつて、之が爲めには臨港地と工業地の終端とを連結する幹線道路並に貨物自動車の利用の發達を必要とする。紐育市の如く發達したる都市に於て集中的計畫を採るに於ては、高層建築を一層密集せしむることに妨げられて擴張することを得ず、且つ空氣は自動車の排泄物等の爲め混濁し、二階若は三階の道路を設くることゝするも却つて自然の空氣及光線より一層遮断せらるゝ結果となり、住居と勞務の場所との往復に多くの時間と費用とを費すことゝなり、交通機關は一層混雜熱鬧し、其の他あらゆる弊害の爲めに遂に堪え得られなくなつて、集中の爲めに生ずる利益は、是等の弊害に基く弊害を償ふことを得ざるに至る。紐育市の如きは未だ必ずしも此の域に達せるものとは言ひ得ないとしても、既に不衛生であり、又經濟上よりも不利益である。否紐育市のみならず、今や米國一般の都市は其の平面的發達よりも立體的發達の甚しいのに苦しんで居る。地域に關する法制も都市の立體的發達の限度が街路交通の爲めに相當の面積を與へ得る限度に在ることを確保する迄には未だ

發達して居らぬ。一般の輿論も亦街路面積に比例する建物利用の制限若は建物の高さ及大きさに對する制限を承認するに至らぬ。ハーランド、バルソコマウが言ふ如く、米國の都市に於ては投機的若は競争的なる高層建築家の努力を賞揚するが、之が爲めに生ずる都市の密集生活を顧るものはない。高層建築を感情的に喜ぶが、其の眞の價値は決して經濟的に有利なものでないことを忘却して居る。

一、地域制に關しては、建築物利用方法と街路利用方法との間に密接の關係あることを忘れてはならぬ。即ち事務所又は工場用の建物の密集する附近の街路並に地下鐵道は全く之が爲めに雜踏する。製造所附近の街路は大部分貨物の積卸しの爲めに占用せられて、眞の交通には餘り役立たなくなる。又建物の後方に空地を存せざるときは、それ丈け前面の街路の雜沓を甚だからしむることゝなる。此の點に就いては、紐育市は最も好い適例を示すものである。

一、近年自動車に依る交通の發達に伴つて、大都會地を貫通する幹線道路を新に開くことが行はれるが、之に關しても地域制の上の考慮すべき問題がある。斯か

る大幹線は附近地の利用に大なる影響を及ぼすものであつて、其の道路接壤地は四、五十呎後退するに非ざれば住居地としては不適當であり、小賣營業地としても附近に住居地がある場合に非ざれば利用せらるゝことが出来ない。其の最も適當なる利用方法は工業若しくは倉庫用とすることである。又斯る幹線の附近に住居地を設けんとする場合には、學校並に公園の如き施設は、夫々其の兩側に設けて兒童をして自動車の交通繁き道路を横斷する必要なからしむる様にすべきである。要するに幹線道路の計畫住居、商工業若しくは公園等の地域の選擇に當つては、之に關聯する各種の要件を考慮せなければならぬ。

一、自動車に關する事故の年と共に増加することは眞に驚くの外はない。コンネチカット州の調査に依れば、一九一八年の二千件に對して、一九二三年には一萬六千五百件を算し、内死亡二百、重傷五百、輕傷三千五百、其の全體の損害は一九一八年の二十萬弗より百五十萬弗に増加したといふことであるが、斯くの如き多數の事故の發生する原因、一は近年の幹線交通路の危險率が非常に増加したことを充分に理解せざるに基因する。近年の幹線街路は交通量の増加と交通機

關の發達とに依つて鐵道線路と同様に危險なものとなつた。従つて斯る街路に接する土地の利用に當つては其の危險の程度を相當考慮すべきである。然るに紐育市の如きに於ては、或調査に依れば兒童の街路上に遊戯するものは五九パーセントに上り、其の甚だしき場所に於ては、七歳より十五歳の男兒の九五パーセントにも達すると言ふことである。従つて兒童の街路上の事故も非常に多く、一九二二年には、死亡四八二人、事故七、〇〇〇件に上つたといふことである。之を見ても住居地域に於ける公園其の他休養施設の計畫に當つては、交通頻繁なる街路の喧燥、塵埃のみならず、其の危險に對しても亦安全なる場所を撰ぶことの必要な所以が了解出来るのである。

一、地域制に關しては土地の價格も亦考慮すべき問題である。土地の利用若しくは地に對する家屋の密度の制限に依つて、土地の價格に如何なる影響を與ふべきやを一般的に論ずることは困難である。例へば住居地域に於ける制限を一英町十二棟とするときは、或土地に付きてはその價格を下落せしむべきも、他の土地に付きては一層嚴密なる制限を施すことに依つて却つて土地の價格を奔騰

せしむることもある。唯其の制限が衛生、保安、交通の爲め相當必要なる限りは低落せしむるも、又昇騰せしむるも致し方がない。紐育市に於ては地域の決定は大體に於て附近地の地價を昇騰せしめた。高等なるアパートメント地域若しくは小賣店の在る商業地域の如きは殊に甚だしきものがあつた。それ故に或る場合には地域の決定は土地所有者若しくは借地人の要求に基くが如き場合もある。地域制の目的は土地價格の維持若しくは昇騰でないことは勿論であるけれども地域の決定には第一に土地の價格に關する研究が必要であつて、土地をして最高の利用方法を構せしむることに依つて、其の價格の維持を圖ることも必ずしも不當とは言ひ得ない。

一、地域制は土地の價格の増進を目的とすべきでないと同様に、都市の美觀を増進することを目的とすべきでもない。紐育市の地域制に關する法律は、建築家をしむべきだしの醜き側面と平面の屋根とを有する建物の都會をして、次第に高く大きい塔の都會になさしむるに與つて力あつたことは之を認めざるを得ぬ。然しそれは決して法律の意識されたる目的であつたのではない。又法律が斯

ることを目的としてもそれは英國政府の住宅計畫に於て、都市の外觀に秩序と調和とを與へんとして却つて單調化せしむる結果となつた如く、結局失敗に終るべきは豫見し難くない。地域制の目的は唯社會的竝に經濟的價值を高めることに在るのであつて、唯其の結果として、土地所有者にとつては社會の福祉を害することなくして財産の増價となり、建築家にとつては其の眞の技倆を發揮し得べき活動の場所を與へらるゝのである。法律規則を以てしては、都市を見惡からしむる不規則の状態を一掃して、之を美しからしむる環境を準備せしむることを得るも、直ちに美しき都市其のものを作ることには出來ない。

一、斯くの如く述べ來つてアダムスは其の結論に到達した。それは地域制の問題は土地利用制限の點よりも、又地域制と計畫上の他の事項との關係を適當ならしむる點よりも、地方計畫に於ける他の事項に比較して一層優秀なる技術を必要とすると言ふことである。例せば都市の雜沓の最も有効にして且永久的の救濟策は、其の主たる原因を除くことにあるは言を俟たないが、然し雜沓は街路の利用より起り、街路の利用は其の沿道土地の利用方法如何並に沿道地に於け

る建築物の高さ並に大さ如何に依ること最も大なるものであるに拘らず、從來都市計畫家並に交通取締廳は、動もすれば姑息なる一時的緩和手段を採るに急であつて、他に根本的原因あるを知らない有様である。此の點からすれば地方計畫の方法論は宜しく次の順序に依るべきである。

第一、土地の利用方法並に建築物の高さ及密度の大綱を決定して計畫地域内の地域を定むること。

第二、放射道路及環狀道路を定めて交通計畫を定むること

第三、地域制の細目決定

第四、街路計畫の細目決定

第四の街路計畫の細目決定に對しては、英國衛生省の採る如く私有地内の計畫は不必要なりとする思想もあるが、之は必ずしも正當ではない。何となれば地域制の細目を決定するには、部局的の街路計畫を決定せねばならぬからである。又地域制は建築物の利用方法を決定するのみならず、建築物の利用高さ、大さを一體として制限せんとするものである。換言すれば建築物の高さ及大さも亦間接に

建築物の利用を制限するものであるが故に、其の細目を決定するには建築物利用方法に關する制限規程と共に其の高さ大さに對する制限規定を必要とする。此の點に就いて米國法は建築物の高さ及其の占有する面積の割合を制限し、又英國法は建築物の高さ及一定の面積に對する建物數を制限して其の目的を達せんとして居つて、孰れも制限の基礎を建物の種別　一戸建とアパートメントと言ふ如き區別に置かない。

三 紐育市及其の近郊の地方計畫

一、地方計畫の實例としては、シュルトレッフ氏の紐育市を中心としたる地方計畫に關する報告を紹介することが便宜である。其の説明に依れば、今より凡そ百年前は紐育市はマンハッタンの先端一平方哩にも満たざる小市であつたが、今日に於てはマンハッタン島に於ける二十二平方哩を中心として、ハーレム河を東に渡つて四十二平方哩、イースト、リバーを越えてキングス及クイーン郡に於て百七十七哩、並に西に灣を横ぎつてスターテン島に於て五十二哩を併せて、合

計二百九十八平方哩が紐育市を形成することになつた。然し此の世界的大貿易港の實際の勢力圏は更に廣大なるものであつて、其の地方計畫の區域はハドソン河を西へ二十五哩、ブリッチポート及コネチカットに至る東方四十哩、ハドソン河に沿うてウエストポイントに至る北方四十哩、ロングビーチ及シーガルトに至る南方四十哩以内の總計五千五百二十八平方哩の範圍である。而して此の區域内の現人口は約九百萬であるが、年々の純増加は約二十萬であるから、此の率を以てすれば一九六〇年には人口二千萬家族數五百萬に及ぶであらう。今日に於ても約三百萬の人口が朝夕市に出入して居つて、最早マンハッタ街にはより多數の人口を容るべき餘地がない。普通行はるゝ街路の擴築、新交通路の開設等を以てしては到底交通の増加に應ずることが出來ざるのみならず、市民は益々之が爲めに重い負擔に堪えざらんとし、其の他所謂過大都市のあらゆる弊害がさまざまの勢を以て迫りつゝあるのが今日の紐育市の實狀であるが、斯くの如き過大都市の弊害に對する現在の唯一の解決策は是等の集中したる人口と産業とを現在行はれつゝあるよりも一層急速に分散せしむること

とである。紐育市の地方計畫區域内には之に應ずる餘地も決して乏しくはないが、唯人々が何處迄も都市の中心に生活せんと欲することが一の障礙であるけれども、之とてもさまざま重大なる故障となる譯ではない。其の矯正策の一は各種の産業を漸次マンハッタ、アイランド及ブルックリンの密集地より移して地代の低廉なる地方に持去ちることである。其の方向は土地廣濶にして交通の終端地を有するニウ・ジェルシーである。之は必ずしも法律の強制に依つて實現せらるべき事項ではなくして、主として經濟的事情に因るものなるが故に、同地方の交通の便を開き、殊に幹線鐵道との連絡を完全にして大工業地として開發せしむることに努めねば其の効果は擧げぬ。其の二は東西に通ずる補助交通路を開いて現在の東西の交通を之に轉換せしむることである。但し北部路線はマンハッタの交通の中心を避け、マンハッタ、アイランドの北端にてハドソン河を横斷すべきであり、又南部路線は全くマンハッタを避けブルックリンの難峽區域の南部を過ぎてスターテン、アイランドに渡るべきである。其の三は交通をより多くの流れに分派せしむることであつて、之が爲め

にはハドソン及イースト、リバーに更に、より多くの橋梁若は隧道を設け、又高速
 度交通機關の系統を放射的に變更するの要がある。其の四は建築物の高さに
 思ひ切つた制限を加ふることである。マンハッタン又はブルックリンの雜沓
 は主として同地域内の高層建築の爲めであるから、若し街路幅員の二倍半と言
 ふ建築物の高さに對する現行制限を一倍半に改むるならば、現在見るが如きオ
 フィス地域の群衆の雜沓は更に廣き範圍の街路に分布せらるゝに至るであら
 う。第五は各方面より紐育市に達する幹線路線の現在の交通量は、何れも極度
 を踰えて居るから、新路線を設くるか若は幅員の擴張連絡設備の改良等必要な
 る施設を加ふることである。幹線路線を横斷する道路は出來得る限り之を少
 なくすべきである。又重荷車専用の交通路を設くることも必要である。而し
 て第六には分散主義に基く上述の各種の施設をして充分の効果あらしめんが
 爲めに、未開發地域の計畫は徒らに在來の既開發地の延長たらしむるが如き結
 果に陥ることを努めて避くることである。既開發地に新に運動場又は公園を
 設くるが如きは經濟的に殆んど不可能事であるが、未開發地域に於ては斯る事

業は將來の人口の密集を防ぎ且都市生活に健全にして愉快なる生活手段を與
 ふる爲めに何うしても施設せねばならぬものである。其の他水道用地、保存林
 の如きも亦新郊外地の空地として役立つものである。米國の實例としては人
 口一五〇人に對して一英町の公園地、百萬人に對して一五〇平方哩の水源地を
 必要とすると言ふことになつて居る。

一、地方計畫の區域に屬する五五二八平方哩の土地に對する行政權は單一ではな
 い。三州に跨つて居つて其の内には四二〇の地方團體がある。米國の各州は
 殆んど一の完全なる主權國であつて、聯邦の統制も殆んど行はれないのみなら
 ず、是等多數の地方團體も亦各其の自治權を衛るに急であると言ふ有様である
 から、三州を統一した一の團體に於て計畫を定めて之を各地方團體をして執行
 せしむると言ふ譯にも行かない、而して從來の實際も亦各州毎に道路、水道、下水
 等に關し委員會の如き計畫決定權を有する機關があり又部局的の計畫に付て
 は地方團體が之を行ふと言ふ有様であつた。故に是等の州、郡、市等の各團體を
 して計畫を立て實行を圖ることに協力せしむることが地方計畫第一の仕事で

おつたのであるが、それが一九二〇年に至つて思ひ掛けなくラッセル、セーシ、フアウンデーシヨンの力に依つて紐育計畫委員會が成立して此の事業に當ることゝなつた。即ち翌二一年には之が爲めに五十萬弗支出せらるゝことゝなり、越えて二二年には次の四部門に岐れて實際の事業に着手せらるゝことになつのである。即ち

一、紐育市技術長ネルソン、ビー、レウイス主任の下に地理的調査。

二、ラッセル、セーシ、フアウンデーシヨン調査部長シエルビーエム、ハリソン主任の下に社會的及生活狀態調査。

三、米國に於ける都市計畫法制のオーソリチー、エドワード、エム、バセット主任の下に法制調査。

四、コロンビア大學教授ロバート、エム、ヘーグ及ロスウエル、シー、マツクレア主任の下に經濟及産業調査。

第一部の調査は既に完了して交通、水道、下水、公園等に關する計畫の立案を急いで居り、第二部も亦區域の住宅調査を終つて將來の住宅計畫は勿論、住居及工業

に關する衛星的地域の決定に對する貴重なる資料を提供することが出來た。學校及休養施設に對する研究も略完了せんとして居る。第三部は一九二三年に十二種の主要工業に對する調査を終つた。其の重要な結論の一は都心地に於ける多くの工業は地代の高價なるに苦しんで居ると言ふことであつた。此の事實は工業の分散を助長するに一層與つて力あるのであらう。法制的調査の結果は現行法制上の多くの缺陷を發見するに至つた。土地の取得を一層簡便適切ならしむること、地域制を一層徹底的ならしむること、共通事項處理の爲市と郡部との組合を設くる必要あること等の如き即ち是である。要するに委員會は今や是等の廣汎なる資料を基礎として地方計畫を立つるに専念して居る。

第四 地方計畫に關する法制論

一、第三部の會議は地方計畫上の法律問題を取扱つたものであつて、ハーグ市教育局長バン、ベルエーの地方計畫に關する地方自治論、ルール炭坑地方殖民聯合理

事、シユミットのルール炭坑地方殖民聯合並にハーグ市都市計畫及住宅局長シユートの和蘭に於ける地方計畫の必要等の報告があり、續いて討論が行はれたのであるが、茲には其の第一の報告を紹介するに止める。

一、ベルエーは先づ地方計畫に關する法律問題の比較研究の困難なる理由を述べて、各國の自治並に官治行政組織及行政法其の他の一般法は、類似の點が必ずしも多くないのみならず、夫れ々々その特色を有してゐるものあるから、簡單に之を敘述論評することは殆んど不可能である。殊に都市計畫若は地方計畫に關しては多くの點に於て私有財産制と密接なる交渉を有するものであるが、各國法は主として十八世紀の思想を基調とするものであるが故に、専ら財産權の保護に傾いて居る。例せば米國の中央並に各州の憲法に於ては、私有財産を神聖視して公共用に供する場合に限つて之が收用を認めて居るが、何が公共用であるかと言ふことに就いては、各州に依り又各時代に依り解釋を一にし居らない結果殆んど適從する所を知らない有様である。又英國の地方行政と大陸の地方行政との大いに異なるは勿論、大陸法に於ても佛國の自治と和蘭の自治とは其

の方法形式を異にして居ると言ふ状態である。唯此の中に在つて英國の都市計畫法は、多くの關係に於て他國の範たるべきものであることは看過すべからざることとなる。レウイスの指適したる如く、英國法は現在の弊害を除去することよりも、寧ろ將來の不完全なる發展を豫防せんとすることに力を注いだものであるが、此の點は正しく都市計畫の理想とすべき所であらねばならぬ。

一、各國斯くの如く實際的方法を異にするに拘はらず、一の共通する傾向は直接都市計畫の局に當らしむる爲特別の機關を設置せんとすることである。米國の地方行政に在りては單に都市計畫に限らず、公共事業の凡ての活躍は殆んど局若は委員會の如き機關を新に置くことに基因すると言つても宜しい程であるが都市計畫に關しては多くは其の機關を呼ぶに都市計畫局の名稱を以てする。又英國に於ては地方計畫を立つる爲めに各地に地方計畫委員會を設けられ、佛國に於ても一九一九年の都市計畫法の下に各種の團體が生れた。獨逸に於けるルール植民聯合の如きも亦此の機關の一である。

一、言ふ迄もなく地方計畫は單に交通問題を取扱ふを以て満足すべきではない。

完全なる都市計畫に於けるあらゆる要素を問題とすべきである。即ち(一)道路(二)軌道(三)鐵道(四)運河(五)公園其の他の建築敷地に非ざる土地(六)運動場其の他の公共用空地(七)幹線下水等の外地方計畫としては(八)田園郊外(九)田園村落(十)飛行機發着場竝に衛星都市等或る程度の計畫を立てねばならぬ。而して是等の計畫を立つるには利害の錯綜せること、竝に計畫區域内の地方團體の多數なる關係からしても特別の機關を決めることが必要となる。唯問題は此の種の機關を英國に於ける都市計畫聯合局の如く、單に勸告を爲す権限を有するのみに過ぎざる機關とすべきか、若は地方計畫の實行を強制し得る権限を有せしむべきかであるが、和蘭の實情は後者を撰ぶに非ざれば短期間に相當の効果を收むることは斯せられない。即ち地方計畫委員會は、計畫を決定する全權を有し、且其の決定せる計畫區域内の地方各團體に對する基本計畫として、各團體の部局的計畫を束縛するものであらねばならぬ。而して部局的計畫の執行は各團體の手に委せらるべきであるか、若し甲團體が乙團體の境域内に於て或種の事業を爲さんとするが如き場合には、併せて部局的計畫の執行權をも有することゝ爲

すが最も便宜であると信ずる。其の他計畫區域内に於ける各團體間の競争問題を決定する権限も有せねばならぬ。

一、和蘭に於ける地方行政は、地方團體が中央政府の行政と對等に行ふ行政と、中央政府の監督の下に行ふ行政とに區別せらる。前者は即ち地方自治にあつて、後者は地方的官治行政であるが、此の兩者に對する地方團體の権限は、法の規定に依つて常に變更せらるゝものであつて、其の限界は必ずしも一定して居ない。

近年は寧ろ地方自治の範圍を犯して地方的行政が甚だしく重要さを加へ來る傾向に在る。果して然らば地方計畫は其の孰れに屬する事務であるか。和蘭憲法第四十四條は地方自治權に關して規定して、都市の行政を地方議會に委任するは一般地方行政法を以てすべきこととして居る。故に地方計畫が二以上の都市の行ふ一地方的の計畫であると思得べき限りに於ては、地方議會が地方行政法の下に單獨若は共同に之を決定する権限を有する如く見ゆる。依つて一九二二年の憲法改正に於ては二以上の都市に關する事務若は事業の制限規定は法律に依るべしとする規定を新に設けて之を明確にした。然し地方團體

に於て行ふ都市計畫の立案及決定に關して一九〇一年に、住宅及都市計畫法が制定せられて以來、都市計畫に關する事項に就いては、全然地方官治行政の範圍に屬することゝなつた譯であつて、從つて議會は一九二二年の憲法改正を俟たず之に關し充分の權能を有して居るべき筈であつたのである。殊に地方計畫は單に都市相互の共働と言ふ問題でなくして、一地方の共同の必要に對する施設に外ならざるものとせば、之に對する監督權が議會に存すべきことは固り當然である。而して憲法第九十四條には既定以外の公共團體に條例制定の權限を與ふるには法律を必要とする旨の規定が存するが故に、地方計畫委員會は之に基いて其の必要とする權限を受くることも可能である。

一、ベルニエは尙地方計畫に關して和蘭現行住宅及都市計畫法の缺陷を指摘して、現行法に依つて到底地方計畫の一般原則を決定することが困難であるから、之が爲めに一の特別の法律を制定すべきことを主張して居る。而して其の根本問題として國家は其の必要と認むる地域に對しては地方計畫委員會を設け、其の組織を定め、且其の必要とする權限を與ふることゝすべきである。其の他地

方計畫法には左の八項に關して相當の規定を爲すべきであると述べて居る。

- 一、如何なる場合に於ても委員會に代表者を選出するの要なき團體の決定。
- 三、關係公共團體の代表者を選出する方法
- 三、委員會の權限及委員の職務
- 四、地方計畫と公共團體の部局的計畫條例規則及新開地團體其他暫定的團體に對する關係

五、計畫の更訂

六、公共團體の權限を必要に應じ委員會に代理せしむる方法

七、費用支辨の方法

八、爭議決定の方法

地方計畫委員會に於ては區域内各團體の利害の衝突を避くる爲、單に都市其他の地方團體のみならず、道路、堤防、運河等の維持に當る各團體の代表者も選出せらるべきである。然し言ふ迄もなく各委員は決して選出せられたる各團體の訓令其他に拘束せらるべきものに非ずして、全く獨立に意思決定を爲すべ

きものである。

五二

一、上述せる所にて明かなる如く地方委員會の主なる任務は適當の調査研究の上關係區域に對する計畫を立案決定することである。而して其の計畫が國家の承認を受けたる上は、住宅及都市計畫法に依り地方團體の基本計畫となり、地方團體は之を基礎として地方の實情に應じたる計畫を樹てねばならぬこととなる。故に例せば地方域制は地方計畫に於て決定すべきか將又部局的計畫を爲すべきかは其の場合に依り決すべき問題なれども、若し地方計畫上の問題とせば、單に其の大體の基本方針を定むるに止むべきである。而して次に地方計畫決定の上は、委員會は其の計畫が果して區域内各團體の基本計畫として準據せられつゝあるやを監視せねばならぬ。之が爲めには必ずしも委員會に對して各團體の部局的計畫に對する認可權を附與するの要ありとも認められざるも、委員會に無關係に部局的計畫が成立することとなすも適當の方法とは謂ひ難い。直接の拒否權を與へざる代りに、中央政府に對して部局的計畫に對する反對意見を提出する權限を與ふることとするが最も穩當である。又一面に於ては區

域内の各公共團體並に法人其他の個人に對しても亦地方計畫の決定に就き中央政府に反對意見を提出する權利を與ふべきである。

一、地方計畫と部局的計畫との關係並に區域内各公共團體に對する關係に於て種々の困難なる紛議を惹起するが常であるが、之が爲めには豫め立法手段を以て解決方法を定め置くが必要であると共に、斯かる紛議裁決の機關として一の中央機關を置くことが最も望ましい。蓋し從來は上級の地方團體に於ける執行委員會が是等の事務に對する監督權を行つて、而も多くの場合有益なる効果を收め來つたけれども、近時比例代表制採用の結果として、斯かる機關の司法的職權の行使は次第に不適任となりつゝあるのみならず、以上説明し來つた如く、上級地方團體も亦地方計畫委員會のものの中に代表者を出すに至るべきを相當とするからである。若し此の權能を主管大臣に與ふべからずとせば、之が爲めに特別の機關を新設することも已むを得ざる譯である。

第五 決議事項

五三

概要以上の對き報告及討議の後次の七項の決議が滿場一致可決せられた。

- 一、都市の無制限なる膨脹發展は好ましからざることである。大都市に於ける現在の状態は一般都市に對する好個の警告であらねばならぬ。
- 二、衛星都市計畫に依る分散主義は、多くの場合に於て都市の過度の膨脹を阻止する方法として役立てしむべきものである。
- 三、家屋の極りなき連續を避くる爲、都市既建築區域の田園地帯にて圍繞せしめ又は農耕地牧場等にて隔離せしむることは、最も好ましきことである。
- 四、交通の急速なる發達殊に自動車の普及は、將來交通問題に對して特別の注意を必要とする。
- 五、地方計畫に對する準備は大都市の將來の發展の爲めに必要である。殊に大都市が相互に接近して存する場合、若は數多の小都市が大都市の周圍に併存する場合に一層緊切である。而して此の場合の計畫に於ては本決議第二、第三、第四に關して特別の考慮を爲すべきである。即ち單純に將來の膨脹發展に備ふる計畫とせずして、寧ろ連續する膨脹發展を避くる爲めの計畫と爲すべきである。

六、地方計畫は弾力性を有し實際の状況に應じて變更せらるべきである。而して其の變更は公益上の必要ある場合にのみ爲すべきである。

七、都市計畫若は地方計畫の決定したるときは、一定の目的に充てられたる地域は、計畫の變更なき限り其の目的に充つることを保障せらるべきものである。

田園都市と過大都市

本篇ハ一九二三年八月瑞典ゴータンブルグ市ニ開催セラレタル
ル國際都市計畫會議ニ於テ英國レイモンド・アンウキン氏ノ發
表シタル“The Garden City and the Overgrown Town”ヲ譯述シタルモ
ノナリ、以テ都市計畫界軌近ノ傾向タル Regionalismノ基調ヲ窺フ
コトヲ得ベシ。

大正十三年三月

飯沼内務事務官稿

田園都市と過大都市

近代都市に關して通常二種の觀察が行はれて居る。

其の一は都市を以て數多の人々が商業上、工業上、其他、雜多なる特別の利益を
獲得せむが爲に集合する場所であると考へて居る。之等の人々から見れば都市
の膨脹は一に都市が支配し得る物質上の利益に繋つて居るのである。斯る利益
が都市に於て提供せられて居る限りは數多の人々が此處に集中して而して其の
利益の源泉に出来る丈近付かうとすることは如何にも當然のことと信ぜられて
居る。彼等は人口の壓力の益々高まり空地と稱すべきものは總て汚穢せられ苟
も利用すべき土地あれば、其處に出来る丈高層建築物を出来る丈堅固なる材料を
以て築造し行くことを以て自然にして且避くべからざる現象であると看做して
居る。彼等は又交通量の増加して其の混雜の度を加へ行くを見る。而して人口の
壓力の生せしむる所の機械的設備及人生の不自然加工を以て之亦免れざる所と
觀して居る。

電車、乗合自動車、自動車、高架鐵道、地下鐵道、エスカレーター、エレベーター等、總て益々多くの人々を其の利益を獲得し得る場所に集合することを得しむる精巧なる設備は之等の人々より見れば最も確實なる進歩の證據である。

「都市に於ての此の觀念は、すべてのかゝる混雜は或不可思議なる經濟上の力、而して此の力が結局に於て、又主として大多數の人々に最大の好機會と最大の利益とを與ふるものであるが——に依つて導かれると云ふ思想と相隨伴する場合が多し。

近代都市をして今日の如く、何人と雖も其の發展を安全に指導し且統制し得ざる迄に利害相争ふ所の複雑極まる一集團と化せしめたることは、之は其の自然の成行の儘に放任したる結果であるか、又は何等か之に於て相當の信念のあつた結果であるかと云ふ問題に於ては、都市の成長を以て之を自然の且不可避的の現象なりとする如上の一般的觀念が過去に於ても亦現在に於ても尙支持せられて居ることは疑なき所である。

然し乍ら茲に過去半世紀此の方都市の觀念に關して新學派が起るに至つた。

即一八九八年エベネザ・ハワード氏が本問題に關する簡潔なる一書を公にして都市の改造を指摘し以て田園都市の成立を促すに至りて、著しき刺激を受けたのである。此の運動は都市並之に包含せらるゝ住宅の改良に關する考察と努力との廣き範圍を包容して、而も漸次に完全なる田園都市といふ形體に其の觀念を表現するに至つた。而して此の學派は前述せる思想とは全然異つた立場から都市都市の歴史及都市の目的といふものを觀て居るのである。レサビー氏は此の學派に於ける老戰士であるが、氏は此の學派の思想を次の言葉を以て表現して居る。

「都市生活は極めて古き制度にして、而して古代に於て既に大なる發展を示した都市は藝術と文學との搖籃である。すべての歴史は都市に於ける生活の記録ではないか、何となれば歴史自身は都市生活者の産物であるからである。

都市生活は一言にして謂へば文明である、都市に於ける生活の大目的は文明と義禮との益々洗鍊せられたる型を作り出すことに在る。而して文明の唯一最高の目的は美しき都市を作り、而して其の中に美しく生活することである。

此の思想は今日吾等がすべての文明國に見る所の大郊外地の不斷の密集的開

發を助長する思想とは根本的に異なるものなることを見るであらう。此の思想を以て今日の大都市を觀ればそれは多少盲目的なる目的を實現することを、無秩序なる争ひに依りて相互に妨害し合つて居る所の暴徒の集團としか見えなないではないか。此の新學派に屬する人々から見れば、都市とは確然と組織立てられたる自治體の家庭^{ホム}でなければならぬ。而して其の結果としてすべての有機體と同じ様な特性を持たなければならぬ。即それは形體^{フォーム}を持たなければならぬ、部分と部分との間の關係を持たなければならぬ。健全なる單一自治體として成長し得るに適當なる大さの限度を持たなければならぬ。而して又恰も他の有機體と同じく、それが其の適當なる身長に達したる時は夫自體の體の不適當なる膨脹に依らずして、寧ろ一般的形體及其完全さに於て自己に近似して而も新しき個性を有し、而して其の若さの與ふる所の更に大なる希望を持てる新有機體の親となる方法によりて膨脹し發展すべきである。

吾等は印度、希臘及羅馬の歴史を繙いて斯くの如き新設都市(New Daughters City)の建設を言祝ぐ繪の如き儀式の有様を見ることが出来る。即新しき土地を開墾す

る必要を生じた人民を支配するが爲に其の勢力を擴張する必要の生じたるときは、若は既存都市が過度に成長して安全に支持せられ、而して容易に達し得へき周圍農村の生産物を以て給養し得ること困難なるに至りたるときは、植民者の一團が募集せられ準備せられて此の事業の爲に組織立てらるゝのである。彼等は嬉々として彼等の種族の神聖なる紋所を掲げ、彼等の守護神を奉じて門出を爲すのである。

然し乍ら、田園都市運動は決して單に近代都市の汚穢と醜惡との反動として起り、時針を後に戻さむと試み、古代の事情と習慣とに復ることが可能でなるとか又は望まじきことであると主張するものではない、寧ろ反對に前進的運動である。文明が齎したる大好機會と利益とを充分に認識し、能率的生産が經濟上重要なことを承知し、又近代人に對して人間の工業的生産を數倍、數十倍せしむる程の力と自然に對する支配力とを與へた所のすべての方法の利益なることも充分に認めて居るのである。近代都市に對する吾等の批難はそれが近代的であるといふ點ではなく、又それが蒸氣機關といふ、近代的方法及大量生産並大量取引を爲すとい

ふ點に在るのでは決してない。寧ろそれが非能率的であるといふことである。近代の好機會より獲らるべき利益が都市の成長に従つて益々甚だしきを加ふる其の無秩序なる混雜に由て全く犠牲にせられたるといふことである。近代的の利便と利益との恩恵に浴することの極めて少き田舎の小村落に比して現代の都市が市民に何れ丈よりよき生活を提供し得ることが出来るかを眞面目に議論し得る程に其の所謂好機會なるものは非能率的であり浪費的である。

されば吾等は經濟的の力を輕視せむとするものではない。否寧ろ吾人は近代工業都市の特徴たる工場、商業的建築物及住宅の混亂錯綜せる所に見出し得る所のものよりも更に大なる工業的能率に對する好機會を提供せむことを試むるものである。

同様に亦吾等は新交通機關、鐵道其の他すべてのものを蔑視するわけではない。寧ろ其の最も經濟的なる使用方法を示さむと試みるものである。特に吾等の希望する所は現代都市に於ける街路の混雜の主なる原因である所の人間と貨物とが其の在るべからざる所より其の行くべからざる所に行かむとして無限に動き

つゝある所から惹起せらるゝ交通の便利の莫大なる浪費を避けしめんとするこゝとである。都市の各部が適當に布置せられ都市住民の生活がよりよく調べられたならば場所の不適當といふことから生ずる人間と貨物との現在の動き方は共に之を防止することが出来る。而して此の望ましき交通運輸が實現せらるれば現在に於けるよりも少き努力を以てより大なる能率を擧ることが出来るのである。

由是觀之吾等の運動が現代の都市に對して投ずる所の批評は事實に於て之を二とすることが出来る。即一は其の經濟上非能率的であるといふことであり、第二は社會的に不完全であるといふことである。

經濟上非能率的なることは驚くに足らぬ、何となれば單に都市の外縁を徒に添付せしむることに依りて之以外の結果を見ることは豫期し得ざる所であるからである。斯の如き成長の形體は益々多くの人間が外邊の周圍に集合増加する場合に特有のものであり而して又集合の効果の最も少きものである。實際吾々の現代都市に對する批難は一言にして盡きる。即それは餘りに單なる群集に似て居るではないかといふことである。而して此非能率的なることは單に日々の商工業

上に影響するのみではなく、かくの如き周囲の錯綜せる添付に由る膨脹の方法には必ず莫大なる浪費的投資が含まれて居るのである。都市の中央に於ては何れの部分と雖も他の部分を犠牲とせざれば成長し得ざる結果となる。人口の増加に伴ひ都市の總ての中央的機能も同時に膨脹せなければならぬ。夫故に現在都市の著しい特徴は建物が其の建築當時に於ては完全に於ては完全に於ては能率的であつたものが工業、商業、卸賣、小賣、商、其の他、都市の膨脹に伴つて必要となれるものゝ爲に室を提供すべく不斷に打倒されて居ることである。斯くの如き建物を犠牲にすることが經費の關係上不可能である場合には全然別箇の目的に建てられたる建物を一時假用するといふ方法が用ひられて居る。斯くの如く都市の他の部分の膨脹に應ずる丈の空地が留保せられざるが爲に惹起せらるゝ全損害額は殆ど評價することを得ない。又都市の各部が適當に集團せざる結果として必ずや工業、商業及住宅の地域と建物とが相錯綜して無秩序に立てらるゝこととなる。都市の膨脹が其の外部に延びて行く限り折角敷地を選択しても其の利益は消滅してしまふ。而して都市の既建築地に於ては或る貴重なる建物を犠牲とし又は他の建物の一時

的假用による不經濟な使用を爲しつゝ都市の各部が更に合理的なる根據に立つて集團せむとする無限の煩悶が續けられる。之等の事が日常生活の上に大なる不經濟を齎すことは驚くに足らぬ。都市に於ける各部分及建物の大部分は不適當なる場所に在つて、而して此の大交通量は人間と貨物との不必要なる移動に因つて惹起せらるゝのである。此の事實は總ての大都市の交通に關する報告書中に明示らせて居る。即人口一人當りの交通量及通行者数は人口増加に比例して増加せずして人口増加數の自乗よりも尙大なる割合を以て増加するを普通とすることが示されて居る。倫敦に於けるコヴェントガーデン市場は此の適例を示して居る。此の市場には毎日世界のあらゆる方面から數千噸の野菜、花卉及果物の類が入り込む。而して此の市場より再び管に倫敦各部分にのみならず、英國の大部分の土地に送り出さるのである。此の市場には鐵道の便利もないし又水運もない、されば如何に少量の物資と雖も倫敦の最も繁劇なる街路を通つて來なければならぬ。而して又同じ様に最も賑やかなる街路を車に依つて送り出さるのである。此の例は最も適當に吾々が人口過剰の都市を批難する第三の經

濟的根據を提示するものである。曰く都市と農村との完全なる分離換言すれば人とその食糧供給との分離である。戦争革命及之に伴ふ變革の結果として歐州大都市の或ものにとりては此の事實は極めて明瞭に感ぜられて居る。此の複雑極まる取引及供給の機械を一時停止するも尙都市生活者の多數の者を殆んど餓死の境に導くに至ることが明になつた。然し之は常に存在する危険ではあり乍ら幸にも只僅かに時に偶然的に現實となつたに過ぎない。之よりも尙重大なことは農村より大都市の住民に對して食糧品を蒐集供給する莫大なる經費の問題である。之は不斷に作用しつゝあることなるが故に其の重要さも一層大なるものがある此の經費の浪費は或國に於ては食糧生産者たる農民をして殆ど荒廢に陥らしめんとして居る。若し之を防止するを得されば其の消費者たる工業勞働者をして半饑餓の状態に陥らしむるに相違ない。農民にとりては其の生産物に付て自己の生活を保障し且土地の生産能力を維持せしむるに足る丈の價額を確保することは極めて困難なることである。而かも一方大都市の住民も亦屢々其の食糧を農民が受けたる金額の三倍を支拂はざるべからざるに至つて居る。斯

く増大したる價額は悉く此の大都市の無秩序なる群集に對して適當に規則正しく配給せんとする難事業に當れる種々の仲次人に吸収せられたるのである。

經濟上非能率的であるといふことよりも或點に於てもつと眞面目な問題は過大都市が其の住民の大部分に及ぼす所の有害なる影響である。近代都市に於ては各種の非常に大なる好運が極めて限られたる一少部分の人々にのみ提供せらるゝことは事實である。而も亦生活條件が人生を指導して人々の人格を暗々裡に毒しつゝあることも同様に明瞭である。都市生活の日一日と募つて行く此の複雑は各個人が益々聰明となり愈々其の人格を陶冶するによりて初めて維持せらるべきであるにも拘らず現在の吾等の都市に於ては其の住民の大部分は市民として此の必要に應ずる力を増すよりも寧ろ次第に減少せしめつゝある様に見ゆるのである。

田園都市運動はさりとて乍ら決して一の批評論ではなくして實に建設的運動なのである。而して上述せられたる弊害の或るものを合理的に匡正せんとするのである。此の匡正の實行し得べきこと及其の效果の顯著なるものあることは既に

實驗によりて或程度迄證明せられたのである。日に日に改良せられ行く團體生活の味はんとする自治體に對して便利なる家庭^{家庭}を提供すること之が都市の主たる目的であると吾人は考へて居るのであるが此の目的から出發して吾々は都市といふ有機體は恰も他の有機體と同様に合理的なる大さを持つて、一定の集團を根據とせねばならぬ。而して其の集團内に於て其の各員の爲に適當なる場所を提供せねばならぬ。此の集團は又集團相互の間及全都市の中央組織に對して適當なる關係を持たしめなければならぬといふことを主張するのである。大群集は規則正しき有機體に變形せしめなければならぬ。而して其の各部分が自己に割當てられたる場所に於て集團生活を爲し得る様適當な設備をすることを要する。吾々は膨脹といふことが單に不規則に各集團に添付することによりて起るべきではなく別に新しき集團を形成し更に一段大なる單位として適當に組織立てられそれが結局全組織と有機的に連絡せしめらるゝことによつて起るべきものなることを信ずる。即吾々は都市自體を以て之等集團の適當に計畫せられたる家庭^{家庭}なりと考へて居る。吾々は其の各集團の膨脹に對して合理的なる限界

を置かなければならぬ。同様に又都市の各部分が建物及他の部分の既設の設備を犠牲とすることなくして成長し得る丈の餘地を持ち得る爲に空地を保留することが極めて必要であると考へる。各都市に於て空地遊歩園及市民の爲に新鮮なる日常食糧品の栽培せらるゝ田園は必要缺くべからざるのである。夫故に各集團に對して適當なる廣さを園野を割當てなければならぬ。而して各團體の需要に必要な空地の割合を減少せしむるが如き膨脹は之を許すことを得ないものである。

都市發展の經費及交通状態に關する實驗は、都市に於ける人口集中の結果として生ずる種々の想像的利益が大なる幻影に過ぎざることを示したのである。而して又其の利益が自治體全體を犠牲として或る個人に獲得されてしまふことが明となつた。都市發展の經費は一例を舉げて各戸に配達する爲に歩行を要する距離に付て考へて見れば、之は主として建物の間口の長さに關係して居る。街路及建物の密集に因て、各個の間口は變らなくとも街路の全延長は減少せずして寧ろ増加すること及適當に街路を配置することによりて大面積の空地を留保して

而も、街路の延長を増加し、又は配達交通等の爲に、多數人の歩行に要する距離を増加することなからしめ得ることが發見せられた。此の理由に基いて本問題研究者の或者は都市の最も單純なる形態は長く連續せる街路であると主張して若し此の連續街路説を極端迄持つて行けば其處には虚偽が潜む。然し乍ら都市計畫を爲すに當りて長き道路を配置して以て建物に間口を供給し且各地點間の交通に供することも事實であり、又道路を短く切り刻んで其の間に空地もなき迄に之を密集せしむることは何れの方面より見るも何等の利益もなきことも事實であり、又或程度迄は經費を増加せず、又便利を阻害することなくして閑裕なる道路を造り得ることも事實である。街路を密集せしむることは其の結果として生ずる交叉點の爲に特に餘分の敷地を要する點に於て一種の不利益を包含するものである。

單純なる連續街路型の有する一の弱點は、人々の歩く方向が一方方向に限られてしまふといふ點である。夫故に一定の距離間に於ては最小限度の建物數が建てらるゝに過ぎぬ。然し若し總ての方向に向つて進み得る様な完全なる對角線的

道路が造られたならば道路間に大面積の空地を介在せしめ、而も配達の爲に歩行に要する距離を増加せず、又一定距離を歩行する間に訪問し得る建物數を左迄減少せしむることなからしむることを得てあらふ。人口密集の他の手段、即建物の階數を増加する方法は之に依り獲らるべしと想像せらるゝ利益を全部抹殺してしまふ程の弊害を持つて居る。何となれば若し此の結果生ずる街路の混雑を避けんとせば道路の幅員及交通の用に供せらるゝ土地の面積は建物の高さの増加するに従つて之亦増加せざるべからざることが發見せられたからである。之は紐育を倫敦と比較すれば其の建物の平均高度と密度とに於て大なる結果其の面積及歩行距離に於て示し得る所の利益が甚だ疑問であることが之を説明して居る。

田園都市運動は空地を更に擴張することには、若し其の利益を確保し得る様に適當なる線に従つて計畫せられさへすれば決して先天的に經濟上の障害が纏綿して居るものではないことを認めて、大膽にも空地の擴張といふことを旗標として立つたのである。即建築地と空地との關係を改良せんとして起つたのである。然し茲に誤解してならないことは、田園都市とは決して單なる田園と都市との混

合ではない。即田園の美點を失ひ都市の長所を棄て、廣野に亂雜に撒き散らされたる建物の謂ではない。否、寧ろ緻密なる限定されたる細胞の様な形に建物が集團を爲し、而して其の各建物の周圍に相互の關係上自然味の害はれざる充分なる面積は田園が留保せられて居ることに存して居る。即目的とする所は建物が適當に立並びたる都市の部分と其の必要に應ずる爲の充分なる面積の空地とを適當なる關係に結び付けんとするに在るのである。

吾等は都市の各部分が適當に計畫せられ且其の各部分の膨脹に備ふる爲に空地を準備せざるべからざること及此の各部分の必要に應ずる爲の建築禁止の土地は必要缺くべからざるものと看做すべきこと、信ずるのであるが、吾々の此の信念の根底に横つて居る所の一般的原则が次の事柄を主張せしむるに至る。即現在の大都市即既に成長し過ぎたる大都市に對して無限に人口の集中するを許さず、寧ろ其の計畫と能率とに於て新原則に基きたる新都市を創成すべく努力すべきこと、及既存の都市の成長を全然拘束することが不可能なる場合に於ては、其の成長を統制指導して、以て一定の計畫ある纏りたる (Self-Contained) 限定的郊外地

若は衛星的都市 (Satellite town) の形體を探らしめ、空地の帯 (Belts of open ground) を以て既存都市及相互から劃然と分離せしめらるべきこと之である。現在既に都會地化せられたる場所に於て、適當に空地を確保することは或は不可能であらう。然し少くとも新たに都市に添付せらるゝ自治體の爲に之を確保することは出來得るに相違ない。即此の場合には之に相當する空地の割合が留保せられなければならぬ。適當なる空地を備へずして、既存都市に益々多くの堅固なる建築物の集團を許容することは何等の理由がないのである。既存の都市を如何に取扱ふべきかの問題、其の混雜を解決し、食糧の合理的能率的なる配給方法を組織し住民をして容易に空地に到達し得る様交通機關を整備する問題は誠に困難なる問題である。而も吾々は之等をして今日以上に混雜を來さしめてはならない。「熱心なる有志者の好意に依る乏しき資本に頼りて爲されたる先覺者の冒險に着纏ふ困難に打克ち其の特に有利なるが爲に選ばんとする敷地を取得する何等の特權を有せざりしにも拘らず、斯かる新都市を創成し得べきこと、適當なる機會を與ふれば新自治體を團結せしめ得べきこと、及一定面積の土地を工業商業及自治的生

活に便利なる様計畫さへすれば之等生活の異常なる發展を遂げ、め得べきことをレッチウアース (Letchworth) は既に證明しウエルイン (Welwyn) は將に立派に證明せんとしつゝあるのである。レッチウアースに於ては既に自活的生活が發達して著しい特色が顯はれて居るが、其の與へられたる機會に對する自治體の責任及其中に成長しつゝある社會的有機體に對する環境の影響を看取して田園都市運動の支持者は満足に堪へない。其の制度は尙年淺く設備も適當ならざるものあり。又其の教育及修養の機會も多く、古き都市に比較して劣れるにも拘らず、而も尙社會的生活及修養的娛樂の機會を享受し得る點に於て倫敦郊外の住民の僅かなる一部分の上中流に位する者のみが享け得る所のもをレッチウアースの總ての住民が享けつゝありと謂ひ得るのである。之は倫敦郊外の大部分が單に過大都市の一部に過ぎざるに反し、レッチウアースが或程度に於て全的なる自治體であるといふ事實から考へて當然なる所である。

此のさゝやかなる田園都市の實現し得べきものなることを證明するが爲に此の原則の一般的適用性を證明し又は其の目的を説く必要はあるまい。

本問題に關しては今後尙大に研究を必要とし積極的宣傳を必要とし又或は思はぬ批評を蒙らねばならぬこともあるに相違ない。畏友コミー氏 (Comey) 近者一書を公にしレッチウアース及ウエルキンに例示せられたる田園都市の多くの形相に對し稱讚の辭に筆を起し、而して吾等の一般的原则に對して批難を加へられたる彼は完全なる全體を形成する様計畫せられ適當なる限界を有する大きに達する様考察されたる人の一纏りの細胞に依つて發展するといふ田園都市の觀念を、既存の人口の大中心が無限に成長すべきであるといふ觀念と比較して不自然であり且經濟的勢力に逆行して實現すべからざるものと考へられて居る。彼は圖表に依つて無限の延長を有する規則正しき膨脹の有様を説明して居る。之を見て予は驚愕を禁ずるを得なかつた。而して其の驚愕たるや曾てカベックブラザース昆虫劇の「蟻の工場」の一幕に於ける物質主義の勝利を觀たる時の驚愕と同一のものであつた。然るに田園都市の思想は不自然どころではなく總ての時代、總ての土地を通じて殆ど普遍的なる經驗といふ後援者を持つて居るに反し或る場所に於て始めて作り出されたる細胞力を無限に膨脹を續けて行くといふ機械的な

る原理は其の支持者として極めて一部の實例しか持つて居らず。今日のアメリカに於て多數の既存大都市があり之等が何れも膨脹を續けて居ることは事實である。然も尙毎年新都市が成立し其の多くが既存大都市の膨脹よりも遙かに高い割合を示して居るのである。紐育に於ける増加の割合は減じつゝあり倫敦は數十年間其の自然的人口増加を吸収することを止めて居る。寧ろ現在に於ては人口の輸出者である餘剰人口の大部分は事實上田園都市又は適當なる注意を加へさへすれば田園都市化し得べき既存の小細胞の中に落行く。若し田園都市運動が人口の全問題を全然分離せられたる新田園都市を創成することによりて解決し得べしとするならば連續的膨脹説も或は有力となるであらう。吾人も亦大都市の成長が或る時期迄は繼續せざるべからざることを認める。而して田園都市運動者は斯くの如き増加に對し其の主義を適用すべき政策を有して居る。即各場合に應じて或は適當に計畫せられたる寄宿舎を備へ設備せられたる工業的郊外地を設け又は一纏りの衛星都市を作ること之である。レッツウオースは倫敦の一衛星であると謂ひ得る。連續的膨脹説の力説する所は大都市の益々膨

脹を繼續すること及人々が之に惹付けらるゝことに存して居る。斯の議論は力強いものではない。而して其の誤謬の最も明なる點は都市の大きが大なれば大なる程實業家に提供せらるゝ利益も大である。何となれば彼等は其の顧客から獲る利益を數倍し得るが故であるといふ事實を根據とせることである。之は疑もなく物質的吸引力である。當り籤の數の増加することも是認せなければならぬ。然し一般の人々が結局其の莫大なる利益を收め得る少數者となる機會が益々減少し其の目的を達し得る一人と爲ることを單に垂涎傍觀する機會が益々増加することに留意するに至るに相違ない。

此の點を暫く措き抑々能率増進生活費輕減地方財政緩和若くは生活内容の改善といふ點から見て大都市の有利なることを論じたる議論ありや。予は殆ど耳にせることを知らず。小農村に於ては外界の事象に遠かり纔に小なる地方的人の噂を吸収するに止まり科學藝術の産物に付ては限られたる經驗を爲し得るのみにして旅行者又は教養ある人々と接觸する機會は殆どないのであるが之に比較すれば都市の持てる利益は明々白々である。然し夫にも拘らず一方の都市

にのみすべての利益があるとは断言することを得ない。只茲に問題となるは相當なる大きさの都市と五十萬百萬乃至數百萬といふ過大都市との間の比較である。現在の大都市に於ける多くの事業の一人當りの經費は世人の要求を裏切つて現實に増加して居ることを看過してはならぬ。英國に於ける地方廳の處理する事業にして地方税に依りて支辨せらるゝものの大觀的調査は人口の増加に伴ひ一人當りの經費を徐々に増加するを見るのである。即人口十萬以下の二三代表的都市に於ては一人當り四十八志五十萬以上の都市に於ては六十七志四百五十萬の都市及倫敦カウンチーに於ては九十六志の數字を示して居る。之を紐育に付て見るも同じく交通水道電話其の他に付て一人當り經費の増加を示す數字が發表せられて居る。之等經費の問題に付ては尙考究を要する他の方面があることは勿論である。即經費は増加すべしと雖も之に相當して其の經營方法が改善せらるゝ所なきや否やである。然し之に對する何等の證據もない。寧ろ之は吾人の反對者側より説明を聽かんと欲する所である。コミー氏は他の批評家と同様都市の大きさを制限することは非實際的にして且不可能なりと考へて居る。之に

對しては然し乍ら次の様に答ふることが出来る。即大多數の都市の大きさは從來機械的に制限せられた。而して其の限界は或は食糧供給の困難其の他種々の經濟上の原因に基き又は流行風俗宗教敬慕又は畏敬せられたる人格者の死又は他に競争的都市の發生したることに依りて定まれることである。加之又人工的限界が極めて一般に定められ且長き期間に互つて維持せられた例は之を精巧なる城市に見ることが出来る。又現今各地に於て限界を置く例としては大面積の共有地又は開發せらるゝことを望まざる個人の大所有地を擧げることが出来る。されば田園都市運動に依りて提唱せらるゝ限界の種類にして衛星的に規則正しく發展する方法が事實上非常に困難なりと考ふることは何等の根據もないのである。斯く限界を置くの効果は一部の者に獨占的利益を與へ入市を希望し従て其の限界を越えんとする者を防止して其の附近に於ける規則的發展の緒に就かしむる可能性を具へて居る。之等の點に於て過去及現在に於て成長を限定することの効果あることを證明する所の所謂自然力に甚だ相似たるものがある。交通問題に關しては從來よりもつと徹底的に吾々の運動と關聯して技術的

に研究されねばならぬのであるが、此の問題に付て見るも現在の事實から、一定の交通上の中心を圍繞する人口の適當なる細胞があつて、之等細胞が高速交通機關に依りて連接せられ、而して此の交通機關が經濟上の理想に従つて或る一地點より他の地點に常に規則正しく人員を満して走り行くといふ原則が證據立てらるゝのである。

八〇

都市發展の田園都市的方法是斯の如くするに於ては連續的膨脹の方法に比し優れるものありと信ずる。正しき平均的載量が其の全行程を通じて維持せられたならば、其の距離が經費に及ぼす影響は距離が時間に及ぼす影響程に甚だしいものではない。倫敦の郊外にして倫敦中心に達するにレッチウオースよりする者より多くの時間を要し、衛星的田園都市に近似せる人口の細胞よりする者よりは更に更に多くの時間を要するものが數多あるのである。

交通機關は、現今に於ては、現在の新事情に容易に適應し得る程に多種多様である。例へば一地點間に於て、單に一日中、或時間を限りて交通機關を必要とする場合、即工場と住宅との間の如きに於ては、鐵道連絡を圖る爲には、永久的線路を必要とし、之に要する資本莫大にして、收支償はざるが故に、自動車乗合、自動車の如きものを以て之に代らしむべきであつて、而して或る用途に用ひられざる時は其の自動車は買物、其の他の目的の爲に交通頻繁なる他の線を走ることとするのである。今日應用するを得る他の方法を以てしても、市の各部分間又は都市と其の附近にある衛星的都市及田園都市とを各場合の必要に應じたる夫々の方法を以て連絡を圖ることの可能なることを發見するのであらう。

最後に現代の大都市が社會的に不完全であるといふ批難に付て、少しく論じなければならぬ。都市が大なれば大なる程、物質的好機會の多きこと、否、常に物質的のみならず種々の方面に於て成功の機會の多いことは、之を是認せなければならぬ。而かも一方に於て大都市に於ける好機會は一に此の機會に依つて利益を享くる人の數が比較的少きことによりて、より大きくなるものなることも亦明白である。されば少數者の生活の豊かさは、多數者の生活の益々單調を加へ行くことに依りて、又實業、科學、美術、其の他の方面に於て相當に享け得べき機會を人口に比例して減少せしむることに依りて、獲られつゝあるのである。都市が大きくな

八一

ればなる程活動の總ての形體は少數専門家の手中に落ち行く傾向を持つて居る。優秀なる十一人が各兩側に立つて技を競つて居る。數十萬の人口が單に之を見物するが爲に群つて居る。予は總ての人々をして其の生涯に於て或る優越感を抱かしめ、智識、修養、娛樂等、夫々の方面に於て公共に寄與したりといふ満足の念を抱かしむるに足るべき相當なる好機會を與ふることが望ましいと信ずるのである。

尙一言せなければならぬことは過大都市に於ける競争は總ての人生を機械的形體に陥してしまふ傾向を持つて居る。現在の經濟的基礎を更に堅固なる且普遍的なるものとするに必要なる或る機械的進化を作り出す爲には此の小止みなき競争の劇しき人生の型が或る期間存在することは或は止むを得ざる所かも知れぬ。然し乍ら之が人間社會永久の姿を示すものとは考ふることを得ない。若し藝術及修養の更に高い享樂といふことが一般的になつたならば、此の小止みなき競争や悶躁は社會生活に於てもつと小なる位置を占むるに過ぎないだらう。而して事情の安定内心の平靜は藝術の再び榮ゆる様な事情の下に於てのみ之を

獲ることが出来るだらう。予は都市の田園都市型は實に此の方面に向つて進んで居るものと考へる。夫故に又手工業並建築の藝術の發達に好機會を與ふると同時に之等及其他の藝術の平均の質を向上せしめ得る生活條件を作り出すものと考へて居るのである。

是を以て吾等は田園都市を定義して次の如く謂ふ。「工業及健康なる生活の爲に計畫せられ、社會生活を完全に享樂し得る丈け大さを持ち而も之より大ならず、田園の永久の帶を以て圍繞せられ其の土地の全部が公有たり若くは自治體に委託せられたる所の都市である」と。(終)

米國ニ於ケル都市計畫ノ傾向

米國ニ於ケル都市計畫ノ傾向

ジョーン・ノーレン

一九二三年ゴートンブルグ

國際都市計畫會議に於て

飯沼内務事務官稿

米國が都市計畫界に寄與したる所を歐洲諸國と比較すれば、公園、諸種の公園系、統、運動場、商業區域と住宅區域との分離を可能ならしむる電車交通の發展、或種の大都市計畫及地方計畫、街路、樹の植栽せられたる廣き住宅地、街路、獨立又は半獨立の住宅ある比較的廣き住宅敷地、更に最近に至りて地域制度、建築物の用途、高度及面積に付種々なる建築規則を以て市を制限せんとする思想の發展と云ふが如き諸點である。約言すれば是等が都市計畫の改良及都市改造の運動に對して米國の擧げたる主なる功績であると思はれるものである。然し英國の都市計畫家の案出した様な田園都市及田園郊外及建設の方面に於て米國の實行したる所は未

た比較的輕微にして且重要なものではない。然し目下計畫中に係るもの又は既に實行に着手せられたものが次第に進捗して來た現状から見れば其の將來は吾々に取つては實に多望であると思はれる。更に吾々米國人が益々歐洲の實際及經驗と直接の且個人的な親しい關係に進みつゝあることも將來を有望ならしむる一理由である。吾人は又他の都市を直接觀察することに依り又全世界の權威の議論を聽くことにより何れを採り何れを捨つべきかを學びつゝあるのである。米國が外國の都市計畫家に負ふ所多きことは自らよく認めては居るが然し若し外國の經驗が吾々に價值あるものであればそれを米國の要求に適合する様に補修する方法を知らねばならぬことをも自覺して居る。氣候、地形に於て勞働、遊戯の方法に於て或は又過去の傳統、將來の希望に於て吾々は他國民と異なるものを持つて居る。故に吾々の都市は是等の差違をよく表して居なければならぬ。

第一 不良住宅ハ不平ノ因

米國人が百人集ればその中六十人迄は不平を持つて居ると謂はれて居る。直

接に關係のない獨立の三機關が米國內に於ける不平者の比例なりとして斯かる數字を發展して居る。其の一は或る有名なる統計家に依りて、第二は軍隊に依りて、第三は教會によつて爲されたのである。現在の一般的の不平と家庭の缺乏との關係及之が救濟策として何等かの行爲を必要とする點に於ては三者その見を同くした。最早吾々は家庭を持てる人々の國民ではない吾々は少くとも吾々の六割は單なる借家人であり飄々たる漂泊者である。假令外部は異つて居るかも知れないが人間の本性は殆んど皆同じものである。而して總ての人の心に皆一様に迫り來る何物かある。その一つは總ての男女及總ての小供に取つて家庭と呼び得るものに對する欲望である。即家族の住居として又家族の象徴として神聖且貴重にして世の中に於て人間の施設中最も根本的なる家庭の所有者となること之である。

將來の産業は恐らくは尨大なる何百萬の人間の集合地に依るよりも寧ろ適當なる大さ例へば五萬人前後の都市に依つて立つに違ひない。大なる人口を持つた都市の二三の必要であることは疑を容れない。然し乍ら何か別種の更に曲伸

性ある組織及運輸の狀態がこの傾向を變更するかもしれない。此の點に於て英國及其の他諸國に於ける衛星的都市運動は有意義なるものである。

米國に於ける傾向も益々同様な方向に進みつゝあるものと思はれる。此の傾向はヘンリーフォート氏の最近の聰明なる事業經營の上に顯はれて居る。即彼は便利なる地點に在る小工業都市を發展せしむるが爲に分工場をその中央に設置して労働者の住居地としての開發を促進し且是等小都市を適切なる生産中心地たらしむるに必要な都市的改良施設に對し財政的に援助する等の方法に依りて其の事業を全國に廣く分散せしめんとする意思あることを公言したのである。

最近に於ては其の他にも種々なる大工場が益々この傾向に向ひつゝあることを示して居る。其の一例たるジエネラル、エレクトリック、コンパニーの如きは全國の人口小中心地にその工場を分散せしめんとする傾向がある。其の理由とする所は簡單明白である。曰く高級労働者を得るに足る良好なる社會狀態、商店及工場に便利なる場所を使用人の住居を定め以て通勤に要する時間と勞力の消費

を少からしむること、製造の各部分を經濟的ならしむる爲に製造原料が一定範圍内に存在し又は生産せられ又熟練労働者の住宅が特別な活動に最も都合の好き一定地域内に位置せること、重要市場の附近に於て製造せらるゝ爲め運送上經濟的なること等之である。

第二「出」大都市

經濟學者にして統計家たるロージャーダブルユー・パブソン氏は最近人口移動の現傾向よりして新なる小都市の發展を促すと思はれる他の原因を指摘した。パブソン氏は大都市の内部及其の周圍に於ける不動産狀態の變遷を調査した。こゝ約十年間人口は大都市に向つて集中したが、今や正にその反對の運動が起らんとして居る。同氏は鐵道創設以來の人口大移動が起り今後十年或は十數年を出てずして郊外住宅の建築は必ずや自動車の發達、道路の改良、活動寫眞、蓄音機又は無線電話の普及と相競つて増加するのであらうと稱して居る。

パブソン氏が此の兩々相對するが如き稀有の郊外運動を豫斷したる根據は正

に是等の驚異すべき發明にあつたのである。現在合衆國にて使用せらるゝ自動車數は一千二百萬臺にして人口十人に付一臺の平均となる。四通發達せる良き道路は從來利用し得ざりし數百萬英町の土地を或は工業地として或は住宅敷地として開發した。此の便益たるや地代は益々高價となり、人口は密集し混亂して今や益々堪へ難くなりつゝある大都會の混亂を緩和する一の救済策である。

パブソン氏は曰く、貸銀労働者は前回の好況時代には自動車を買つたが、次の好況時代には彼等は田舎の家を買ふてあらうと。

之等は總て民衆が社會的にも經濟的にも向上の途に在ることを示せるものである。田舎の生活は舊時の寂寥たる孤立的状態より急激に變轉して上述の種々なる大發明は何れも便利と愉快と生の悦びとを與へるのである。パブソン氏は曰く、活動寫眞は田舎町の公會堂を都會の大劇場と同等ならしめ、貨物自動車は田舎又は郊外の住民に對して都會と殆んど同様な貨物と便宜とを與へて居る。乗合自動車は到底電車を通ずることの出来なかつた街路に迄運轉せられて居る。自動車は田舎の家庭から學校や町へ行くのに數分間で行ける様にするし、連鎖商店チェーンストア

ほどの町村に於ても都會人が享受すると同様に便利なる買物が出来る様にし而して無線電話は郊外の家庭をして都會の講話や音楽に與ることを得させる機會を與へるのであると。

此の發展は種々の缺陷其の極に達し労働者を數千人づゝ一纏にして都市より追拂ふ様になつた時には必ず起る運命である。「住宅面積の稠密と高價な地代とは永い間不滿不平を醸成しつゝあつた。現に既に五年以上に亘りて之等の事情は存在して居るのである。借家人の反抗は正に爆發點に達してゐる。どんな些細な變化も人心を惹き付けるに十分である。都市労働者が一度數百弗の金さへあれば思ふ儘の土地と共に彼自身の家を得ることが出来ることを知るならば、彼はきつと移住するに違ひない。多くの米國都市の近郊に於ては健康を熱望するの余は美しき風土が掠奪せられ、切斷せられ、醜痕を印し、假小屋の亂雜に建てられて行く亂暴なる實例を見る事が出来る。住宅敷地は賢明なる發達を顧慮せざる無茶苦茶な設計に従つて生じて來た。此の種の都會の洪水は恰も滿ち來る潮が堤防の弱點を破つて制止するものなく其の附近を浸して大損害を與ふる様に

似て居るのである。

不可避なる此の出大都市の運動は豫見することが出来る。従つて之に對しては正しき逃道を示して之を受け容るゝ爲に夙に準備せられた適當なる場所に之を導かねばならぬ。有能にして先見の明ある建設的事業家の花々しき仕事は此處に在る投資家の有利な舞臺も亦此處に在るのである。

住宅敷地を選択するに當つて第一に考へなければならぬことは交通の便利なること之である。パブソン氏は鐵道は多くは都市を構築するに適せざる谷間や低地を走つて居る。是等の線路間には建築に適する數哩の土地がある。然し汽車に達する道の無い爲に問題とならなかつた。然し今や新建築が最も目覺しく發展せんとして居るのは鐵道線路間に介在して都市より半徑十五哩又は二十哩以内の土地であつて且自動車及改良道路が之を開發する地方である」と稱して居る。

或る經濟學者の言葉を藉りて謂へば此運動は未曾有の規模の下に行はれるてあらう。此運動を指導して行く爲には之に相當する規模の準備が必要である。

故に從來爲された準備例へば田園都市の建設模範的郊外町村の開発の如きは假令それが相當大規模に行はるゝにせよ之を現在の趨勢に對する需要に比すれば到底充分といふことを得ない。吾等の前途に如何なる仕事か吾々を待つて居るかは容易に想見することが出来る。かくの如き仕事は現代の最大なる商業若くは工業を完成するにも比すべき大規模な準備を都市計畫家に向つて要求する。此の仕事は工夫し且實行したる場合に其の結果に於ては充分有利なる見込のある點に於て此の仕事は如何なる大事業にも匹敵し得べきものである。

第三 田園都市建設方法

一九二二年春倫敦に於て開かれたる國際都市計畫會議に於てサーテオドル・デー・チェンバース氏及シー・ビー・ブルドム氏の提出に係る全世界に田園都市を普及せしむる方法如何の問題に付茲に一言し度い。此の論文中には田園都市を生じたる原動力如何の間に對し次の如き答がある。英國に於ける二つの計畫、レツナウォース及ウエルウキンは普通の株式會社法に依り設立せられた會社が之を實

行した會社は何等特別の權利を持たない全然私企業の法人である。但し兩社共株主の取得すべき利益の額は普通の良好な保證ある資本に對する公正にして且相當の報酬を超ゆることを得ずと制限せられて居るから兩會社は何れも半公共的の性質を有すと見られて居る。ウエルウキン田園都市は地方廳の理事局に其の代表者を出して居るから半公共的團體としてはレッチウオースより遙かに進んで居る。田園都市が苟も町である以上單なる收益事業としては満足に建設し得らるゝものとは今日考ふることを得ない。そこで田園都市事業は公共團體と何等かの關係ある團體が之を管理することが必要なりと考へる。新なる敷地上に町を建設することは土地を所有することに依り自然的獨占的の大權力を企業者たる團體に與へ若し之を保存するに於ては財政上非常に重要なものとなるのである。又土地を所有することは設計を實行する權力を與へる。加之又時の経過と共に公共に對し社會的且財政的の價値ある經濟的利益を齎す機會を與ふるものである。此の理由のみによりても田園都市の經營は何等か公共の監督に服せしむることが穩當である。さればとて又官僚的では決して成功するもの

ひなる。

假令全部と迄は行かなくとも多くの國に於て此の運動が次第に盛になつて來れば田園都市を援助し之に種々な權力を與ふる立法を要求するに至るであらう。英國に於ては一九一九年の住宅法（ハウジング・ビルド）に於てかゝる團體は或條件の下に必要とする土地を強制徵收する權能を與へられ又一九二一年の住宅法に依り團體は政府より資金の融通を求むる權能を與へられた。是等權力の行使は團體を或程度迄政府の監督に服せしめるのである。

市及國家は恰も過去に於て新しき町を建設したるが如く何等かの保障さへあれば自ら田園都市の發展を策することが出来るであらう。地方廳の代表者商業會議所協同團體縣等も亦此の事業を企て得るのであつて、其の採用せらるべき方法は一に地方の慣習と要求とに據るのである。

上述の論旨より考へて米國の或大都市の附近に非常に興味ある一の實例が生じた。各階級の工業労働者の爲に眞に理想的な廣大なる住宅地が準備せられて居ることである。やがて公共の福利を増進し個人の幸福を所期する状態が實現

せられるであらう。

第四 オハイオ州メリーメント

新郊外地の名はメリーメントと謂ひオハイオ州シンシナチ市の東約十哩の地に位する。之は公共的精神ある富豪の一婦人が何か價値ある仕事を仕度いといふ年來の宿望に依りて發起せられたことは勿論であるが、又一面投資々本額に對して普通の公正なる報酬を得らるゝことゝし以て經濟上からもこの計畫を正當なものとする考である。シンシナチ市のメリー・エム・メリー夫人が此新らしき町メリーメントの創設者である。幾年かの間エメリー夫人は新都市建設の計畫を心中に抱いて來た。既に一九一五年には其の代理人を通じてシンシナチ市附近の便利なる地方の土地の買収に着手した。此の事業は目的遂行の妨害となる投機者流の容喙を避ける爲に注意して行はねばならなかつた。

メリーメントは單にシンシナチ市の状態を救済する爲にのみ企てられたのではなくして新都市、新郊外地の創設即ち適當なる住宅のみならず、學校、娛樂場、博

物館及小商店を具へたる完全なる道德的社會を建設せんとする重要な公共事業を援助する條件に従つて實行しやうとするのである。人類を愛するものにしてメリーメントの計畫及建設は多くの點に於て意味の深いものである。事業上の建設的想像力と結合せる辛棒強き且巧に指導せられた努力から如何にして廣き公共の福利が生ずるかの実例をこゝに一つ得たのである。一度具體的の教訓として見せつけられた以上は必要ではあるが、現在迄妨害を受けて來た労働者住宅問題に對して此の健全なる計畫は單に一つの例なるに安んぜないであらう。それは單にシンシナチ市にのみ止らず、全國に擴がつて到る處に救済と祝福とを齎すに違ひない。

終に臨んでメリーメントの設計の主要な具體的特徴を説明し度い。第一に其の敷地は工業的衛星都市として、或は郊外地として適當なる場所を選択せられた。其の位置はシンシナチ市に入るベンシルヴェニア鐵道に沿ひ、マジソンヴィル及ブレインヴィルニ隣接し、現在工業中心地たるオークレー及ノルウッドより約二哩を距る地點に在る。リットル、ミアミ、リヴァーに近き平坦なる高臺の上に位し、

又最近取得した其の隣地は鐵道の便を得て工業的發展に對し絶好の機會を持つて居る。さればとてメリーモントは孤立して居るのではなくして、シンシナチ市の生活、即大劇場、美術博物館、歌劇場、中學校、專門學校、大學、公園及大都會特有の商賣上の便宜と密接な聯繫を持つて居るのである。

メリーモントの一般街路計畫は美しく且經濟的である。それは重要な地點に容易に達し得る街路と便利なる環狀街路とより成り、主要幹線はシンシナチ地方の幹線道路系統に直接關係ある様に配置せられて居る。街路及區廓計畫は全體として新都市計畫の巧妙なる一模範である。

一般計畫は町の中心に綠樹と市役所、圖書館、俱樂部、教會、ホテル、公會堂、劇場、郵便局、銀行商店及市場の如き公共建築物とを配し、學校、遊歩園、體操場、競技場、テニスコート、各種の公園、水泳場、湖沼、天幕、公園、休憩場及高き河岸に設けられたる廣場等充分に設備せられて居る。最も重要なものは勞働者の爲め完全にして美しき住宅設備である。最も小さい集團家庭の敷地ですら英國田園都市の標準に合して居る。即メリーモント全體の稠密度は一英町當り七乃至八住宅である。集團家屋、

アパートメント、獨立家屋、半獨立家屋等皆夫々に設けられて居る。何れの家屋も皆注意深く設計され煉瓦、石其他永久的建築材料で造られて居る。電氣及蒸氣暖房等あらゆる現代的の利便の設備があり、電話電燈等の電線等は總て地下に埋設する計畫である。交通機關、娛樂場、下水道、上水道、電話、瓦斯及電燈の最初の設置費はメリーモント會社がパブリック、ユチリチー・コーポレーションと協力して負擔する。尙之を適當に維持する爲に適當なる計畫が樹てられる筈である。

計畫せられたる面積の總計は三六五英町である。此の中土地の主要部分約二五〇英町、河川敷地七〇英町、病院敷地二五英町を含む。元來メリーモントの土地に隣接せる區域五〇英町は工場地に適當なる場所として最近取得せられた。メリーモントには平均一英町當り七住宅を超えざる家屋敷地が七五〇ある。敷地の普通の大きさは集團家屋に於て二〇呎に一〇〇呎、半獨立家屋に於て三〇呎に一〇〇呎である。獨立家屋に於ては間口は五〇呎乃至八〇呎、奥行は約一二〇呎である。土地の約二分の一は住宅敷地に、四分の一は公有地に、四分の一は道路敷地となつて居る。街路幅員は四〇呎乃至八〇呎である。公園のみにて五〇英町以上、公園

山
林
都
市

一〇〇

と其他の公用地とを合すれば七〇英町を超える。メリーモントは差當り人口約
五千人に對して設備をして居るが、結局は約一〇、〇〇〇人に達するであらう。

(終)

序

此の山林都市一名林間都市は、都市と工業とを研究して居る私の「ユートピヤ」である。ユートピヤは實現の價值なき夢だと云つて嘲つた時代は過ぎ去つた。ユートピヤは事實に於て文明の母である。されば私の此のユートピヤも、一口に價值なきものと貶さず、眞面目に耳傾けられて、何とかして實現する方法を研究してくれたならば、獨り私の爲めのみならず、社會の爲めにも國家の爲めにも、如何に幸福であらうかと思ふ。其の大意は左記の通りである。

大正十一年五月

國際田園都市及都市計畫協會々員

黒谷 了太郎

大意

1011

- 一、都市集中は社會上諸種の弊害あること。
- 二、都市集中は都市自身の爲めのみならず國家の爲め甚だ不利益なること。
- 三、都市集中に基く都市内の弊害を除去するは近代的都市計畫の精神なるべしと雖も我國に於ては之れが頗る困難なること。
- 四、英國に於ては都市救済の根本策として都市集中に反對し田園都市を作りて人口の分^{アセントラゼーション}散を企てつゝあること。
- 五、我國に於ても都市生活を有意義ならしめんが爲めには都市中集を避け、別に新しき町即ち新理想都市を築造せざるべからざること。
- 六、然かも日本に於ては土地高價なるを以て英國に於けるが如く田園都市を築造する能はざること。
- 七、我國に於ては山林を利用し田園都市の代りに山林都市を建設せざるべからざること。

八、山林都市は田園都市の精神に基き工業を中心として市街を建設し市民をして衛生的に文化的に生活せしむるものなること。

九、山林都市は都市の文化設備と天然自然の美觀とを併せ有するものなるを以て市民の心は自ら慰藉せられ能率は増進し労働爭議は之れなきこと。

十、故に社會改良家及科學的工業經營家は是非とも山林都市の建設に努力すべきこと。

1011

山林都市 (一名林間都市)

從來の大都市は恰も誘蛾燈の様なものであつて、人を四方から引付けて而して之を殺してしまふのであるが、多くの人は之を知らずに清らかな農村を見捨て、都市へ都市へと集つて来て、窮屈な住宅に入いつて、汚い空気を吸つて、悪い病氣に罹つて、代る／＼消へて行くのは、誠に氣の毒な事である。

我國民の死亡者平均年齢は明治十九年には男が三十八歳一三で女は三十八歳九一であつたが、其の後國民の都市集中が烈しくなつたので、其の年齢が段々短くなつて大正六年には男が三十一歳七二、女は三十二歳二、平均三十一歳九六と云ふことになつた。而して名古屋は男二十九歳九四、女三十一歳一九、平均三十歳九六で、神戸にては男二十七歳一九、女二十五歳九二、平均二十六歳五六で、大阪にては男二十五歳六六、女二十六歳〇四、平均二十五歳八四である。と云ふ様な譯で、我國民は都市に集中するに従つて、壽命の幅即ち健康が衰へると共に壽命の長さが、短縮して國民としては羸弱となり、社會としては不健全となるので、國家の利害か

ら見れば實に寒心に堪へない次第である。

此の都市集中と云ふことは世界の社會史を繙くまでもなく、西洋では十六世紀に於ける Land enclosure 即ち土地私有制度の認定以後から顯しくなつて、小作人は地主の誅求に堪へ兼ねて農園を捨て、都市に彷徨ふと云ふことになつた。當時の有様を書いたものを見ると、大道には憐れなる貧民や、逐ひ出された乞食で充ちて居り、債主に土地を取り揚げられた數千の農民は、飢餓に逼つて居る子供を連れて裁判所の戸口に立つて土地の回復を訴へるけれども駄目であつて、其儘乞食をして倫敦の市中を彷徨して居るとある。其の結果として田園は荒廢して都市は矢鱈に膨脹する、細民は益々増加して、社會上誠に忌はしき状態となつた。當時の俗謠を見れば

The towns go down, the land decays,

Great men maketh now-a-days,

A sheep-cote in the church.

と云つて悲惨なる産業萬能の社會状態を諷刺して居る、如此形勢は十八世紀末の

産業革命以來一層甚しくなり、村落の人民は年々歳々都市に吸収せられることゝなつて、農園は殆んどなくなつて茫々たる牧場と變つてしまひ、都市は不規則に益々膨脹して家屋は建込む、其處彼處に工場が出来て、交通が頻繁となり、黒煙が天に漲つて塵埃が空を覆ひ、喧しき音や不愉快な響が絶えず神経を刺激して生活の安全を脅かすことゝなり、文明に赴くと共に文明の意義が分らないことになつた。實に相當資産のある者は所謂ミルリヨナス、サパーブに廣大な邸宅を設けたり、綺麗な庭園を築きて慰藉も快樂も充分に得られる譯であるが、多くの人間は市中の裏棚に蟄居して、日光さへも拜むことが出来ずに燻つて居ると云ふ有様、如此生活には決して文化も幸福もなく、日中は工場の煙と塵埃の中に働いて夜は汚い陋屋に寝て居つては何の慰藉も快樂も得られない。其處には犯罪の卵や結核の微菌が養成せられて自ら滅び行くのみならず、其の害毒を社會に流布して各人の幸福や國家の安寧を損ふことゝなるのであるが、我國に於ても戊辰以後社會状態が一變して都市集中の弊害を蒙りつゝあるのである。我國に於ては英國に於ける／＼が如きインクロジュアの弊害を受くることは少ないけれども、侍級が秩祿を奪は

れて大都市に集つたり、教育を受けた青年が郷里に於て衣食するに足らざるを以て、職を求めて商工都市に集中せらるゝことは争はれぬ事實である。戊辰以後は我國に於ても産業革命の餘波を受けて工場工業が弗々勃興することゝなつたが、我國は西洋各國と異つて天然資源の蓄積が極めて貧しいのみならず、石炭の分布が兩極端に偏して居る爲めに工業の分布も極めて悪しく、多くは六大都市及洞海湾附近に集中せられて、だらしなく發達して居る。其の結果として人口も其處に集中せられて、黒煙や塵埃や小動物や微菌と同居して居る。心なき人は此の状態を見て都市が大きくなつたと云つて悦んで居るが、焉んぞ知らん其の細胞たる市民の多くは九尺二間に蟄居して僅かに家族を臥かすに足りる丈けである。殊に今日は住宅が拂底して家賃は目の飛び出る程高くて間借生活をなして居るものも亦尠くない、此等は家に住んで居ると云ふよりも寧ろ收められて居るも同然にて生活して居ると云ふよりも寧ろ棲息して居る丈けて、其處には文明の光も文化の風も入らるのである。

こんな處に住んで居る人には青空さへも望み見ることが出来ない、況んや自然

の緑や四季の美しき色彩を見ることは出来ない。故に其の感情は自ら荒み果て犯罪の起るのは少しも怪しむに足らない。六大都市の存在する三府三縣の犯罪件数が全國の其れの約三分の一に達するのにも決して不思議はない。其處には輝々たる日光も入らない、其處には新鮮なる空氣も入らない。故に微菌は悦んで繁殖して全市に蔓延する、病人や死人の多いのは當然である。病院や墓地が幾ら多くとも足るべき筈はない。如此は都市の悲惨と云はずして何と言はう。實に如此悲惨より都市を救済し様と云ふのが英國の都市計畫であるが日本の都市計畫は果して同様であるや否や甚だ疑問である。

英國の都市計畫の精神は社會改良家たるロバート・オーエンやジェムス・シルク・バツキングラムやエドキン・チャツドキツクの社會政策から發足したものと云ふことが出来る。オーエン氏とバツキングラム氏とは社會救済の見地から自個の資本を投じたり、株式を募集して新都市の建設に努力した。其の計畫は不幸にして蹉躓したけれども其の志は決して滅せずして今日の田園都市を産んだものとも云へるのである。チャツドキツクは英國の社會事業の基礎を築いた人であるが、同

氏は主として在來都市の改良に努め、以て現在の都市計畫法を産み出したものである。實に同氏は社會改良の第一着歩は國民の健康に在りとなし、衛生事業に全力を注ぎたるのみならず、熱血を振つて工場法や貧民法の改正や社會保險や住宅問題の基礎を築いたのであるが、其の衛生條例から建築條例が産れ、建築條例から更に都市計畫條例が産れて來たのである、されば英國に於ける今日の都市計畫は米國の其れとは異り、全く此等の社會改良家の精神に基いて都市生活の弊害を救はんとする一種の社會事業であると言つても宜しいのである。然るに如此事業はもとゞ容易の事業でない爲めに、都市生活の悲惨は十九世紀末に於ても依然として顯しいので、エベネザール・ホワード氏は之を見兼ねて、明日の田園都市を著し根本的に都市の悲惨を救済するには矢張りオーエン氏やバツキングラム氏の企てた様に田園都市を作り、以て人口の分散即ちデセントラリゼーションを圖り、而して其處に人間としての意義ある生活を營ましめねばならぬと絶叫したのである。

其の叫は最初は空想家の夢想に過ぎぬと嘲けられたが、豈に計らんや同氏の理

想して居る田園都市はボンヅキールのチョコレート製造会社のジョーヂ・カッド
 バリ氏やポートサンライトの石鹼製造工場主のキリヤム・レヅアー君に依りて其
 の著書の出版前に實現せられて好成绩を擧げて居ることを知るに及んでホワ
 ド氏の理想は初めて眞理であると云ふことが分り、現在の都市其物も田園都市化
 をしなければならぬと云つて、田園サブープを計畫することとなり、今日では英國の
 都市計畫は殆んど此の精神に依りて實行せられて居るものと云つても宜しいの
 である。然るに日本に於ては如何であらう。法律上都市計畫と稱するは交通、衛
 生、保安、經濟等に關する重要施設の計畫を謂ふとあり、社會的施設の計畫も其の中
 に含んで居ないとは云へないが、之に關係して居る人々や之に就ての論議から想
 像するに、日本の都市計畫は全く實利主義から出發したものであつて、逆も社會改
 良など、云ふことは夢にも考慮してない様に思はれる。其の證據として孰れの
 都市に於ても、倫敦や紐育や市俄古の様な大々都市を作らうとして居る。倫敦の
 都市計畫家は都市の大々の膨脹は社會上經濟上忌まはしきことであるから、衛生
 都市を作つて人口のデセントラリゼーションを企て、居るのに、日本に於ては恰

も其の正反對に都市集中を推奨して、何んでもかんでも、コンセントレートしやう
 とする傾向を示して居る。之れでは高速度の交通機關が幾ら出來ても混雑を救
 ふことが出來ず、益々混雑を増す許りであるのみならず、社會上經濟上甚だ面白か
 らざることとなるのである。尤も日本の都市計畫に於ても衛生と云ふことは多
 少考慮せられて、建築物法には建物面積の制限はないでもないが、事實此の規定に
 依つて人間生活に必要な空地は保證せられない事情がある。日本人の頭には
 土地を可成集約的に使用するのが經濟であると云ふ穿き違ひの經濟觀が凝り固
 つて居る。之は澤庵と梅干を喰べて居れば一番經濟であると云ふのと同然であ
 る。されば勞働者の如き、高いアパートメントを造つて之に收容したら宜しいと
 云ふ説が随分有力である。人間を積み重ねる位なら先づ以て商品を積み上げて
 貰ひ度い。日本の都市には到る處に貧弱なる小賣店が土地を領して居る。こん
 な物こそ大きなデパートメントストアに收容して欲しい。商品なら兎も角、人間
 を積み重ねることは衛生上、保安上、甚だ不良なるのみならず、米國都市に於て目下
 苦んで居る交通上の混雑を來たす基である。

如此日本に於ては往々人間を貨物より安つぼく見て居る處から、労働者の住宅は工業地域内に置けば宜いと云つて居る人の尠くないのは毫も怪しむに足らないけれども如此は日本古來の道徳を無視して西洋式のオートクラシーから來た思想で、人道上甚だ宜しくない許りてなく、衛生上甚だ悪いことは勿論、科學的見地より云へば所謂整調コイオーネシヤンの原則に背く譯にて、經濟上之れより不經濟なものはない。工業地域と云へば夫れ工業に必要な運河とか鐵道とかを開設しなければならぬ譯であるが此等は必ずしも住居に必要なものではない。必要のない者の爲めに開設したり延長したりすることは不經濟と云ふよりも寧ろ浪費と云はざるを得ない。

乍去西洋でも十九世紀までは實にこんな風であつた。而して目的とする所は單に人口の増殖と金儲とに止まつて居つた爲め、其の計畫としても唯々産業の發達に資せんが爲め交通の便利を圖ると云ふことゝヴァニティーの爲めに都市を美化すると云ふ位が關の山であつた。其の結果として都市に迷ひ込む者は愈々多く、其の弊害を受くる者も益々多きを加ふる所以である。早い話が大阪を見れば甚だ明かである。家屋があんな風に密集してしまつたら、都市はお仕舞である。如何にも金のある人は鳴尾でも西の宮からでも通へるであらうが、金のない人は嫌でもさうても、あの逼き込んだ町の中に住んで都市の總ゆる害毒を蒙らなければならぬ。大阪には總ゆる犯罪が行はれて病人や死亡率の多いのは少しも不思議ではなし。

如此は獨り大阪許りてはなく大都市と云ふ大都市は大阪と同様な運命を持つて居るのである。何となれば皆都市集中を悦んで、百萬の都市は之を二百萬となし二百萬の都市は之を四百萬にしようとして居るのみならず、狭い處に人間を押し込んで更に之を積み重ねることを以て經濟的だと考へて居るからである。

されば私共の目から觀れば大都市の周圍には田園サバブを作つて此等の弊害を除き度いものであると思ふけれども、叙上の如く労働者なんかはアパートメントに收容するが宜いと云ふ位なれば吾人の理想とする田園サバブは逆もく出來る筈がない。縦令之を作らうとしても、日本に於ては非常に困難な事情がある。西洋では郊外の土地は非常に安いけれども、日本に於ては目玉の飛び出る程

高いのである。何故高いかと云へば全く土地投機の結果である。米や野菜を植へて置けば一反に付三十圓乃至五十圓の小作料を得るに過ぎないので、之から還元すれば三百圓乃至五百圓しか価値のない土地が、五六千圓は愚か、二三萬圓もすると云ふ有様、こんな高い土地にどうして低廉なる田園住宅を供給することが出来ようか。

されば人間として人間らしい生活を営ましむる爲めには、ホワード氏に従つて別に都市を築造するより外はないと信ずるのである。此の見地から英國に於けるが如く、大都市を離れて別に田園都市を造ることが出来るならば極めて便利であるが、日本に於ては中々容易でない。日本では三百町歩や五百町歩の土地を極めて購入することは殆んど不可能である。而して現行法規に於ては市の計畫を離れて土地收容も出来ない。縦令出来る様になつても、西洋と異り土地が中々廉くはない。英國に於ては都市を離るれば大方牧場なるが故に地價が非常に廉いのみならず、新都市の築造に適當なる場所が澤山あるが、日本では田か畑である。而して其の價は縦令思惑が餘り入つて居らぬにしても、決して廉くはない。田で

あつても一反歩七八百圓もする、畑でも五六百圓を拂はねばならぬ、其處に相當の都市的設備をなせば随分高いものになるのである。故に日本に於ては田園都市を造るにしても事實容易の事業ではない。唯々庭園を有する住宅地を設ける位の事にて、本統に自然に接近して工業の疲勞を農園趣味にて慰藉することは思ひも寄らぬことである。故に日本に於ては各人平等に人間らしい生活を営まうとすれば、山林都市を造るより外之れなきことと思ふ。

實に従來の日本人は悟りを開いて居るのか、神經が遅緩であるのか知らないが、都市生活の不安を感じることが薄いのみならず、矢鱈に都市を憧憬する癖があつて裏棚の薄暗い陋屋に住んでも、矢つ張り東京が愉快だとか、大阪が面白いと云つて愛兒愛妻が絶えず危険に曝らされて居ることを知らないのである。乍去段々教育が進んで各自の理想も自ら高くなり、淺草や道頓堀のどんちやんよりも、眞善美に向つて渴仰し、新橋や新地の豪遊よりも、家庭の快樂を要求し眞に日常生活に就て覺醒して來たならば、改良し難き日本の都市生活には愛想の盡くるときが來るであらうと思ふ。陶淵明でなくとも必ずや歸去來を謠つて田園に歸臥し度いと

想ふてあらう。殊に日本人は本性として天然自然を愛する國民である。日本の某階級の人には支那人の様に暗い家てなければ金が儲からぬと云つて、態々家屋を不衛生となし、粥を吸つても金儲が第一、義理を缺かうが、恥を搔かうが、金が大事、金は生命、成金を以て立志編中の偉人と謳歌したり、金儲は人生の目的、と信じて居る人もないではないが、如此は日本人の本性ではない。日本人は九尺二間に整居して居つても一輪挿を慰んで居り、一坪に足らぬ空地にも躑躅や南天を植込んで楽しんで居り、若し出来るなら、相當の庭園も持ち度い。餘裕だにあらば山水の眺も得度いと思ふ心は、何人にも潜んで居ると私は信ずるのである。

乍去一旦教育せられて文化を味つた者は、在來の農夫や樵夫の様に單に土を掘ちくつたり、木を切つたりすることのみを以て満足出来ない。矢張り他面に於ては都市特有の文化施設を要求するのである。されば農村は都市的に設備し都市は農村的に調理することは社會上最も必要なことであるが、從來だらしく出来上つたものを繕ふことは容易のことでない。殊に日本の都市計畫は小都市の改良や農村の都市化を豫想して居らないので、我々の理想の實現には不便である。

されば我々の理想を實現するには別に新しい町即ち理想都市を造るより外ないのである。之れが爲めに英國に於けるが如く、容易に田園都市を築造することが出来るならば甚だ結構であるが、之れは叙上の通り平地に於ては土地が貴い爲め所謂田園都市を築くことは困難なるが故に、寧ろ山林を開拓して、理想都市を作つた方が得策であらうと思ふ。

日本に於ては目下山林を利用して國立公園を設立し様と云ふ説が喧しく宣傳せられて居る。米國の如くミルリョナーの多い國には這種の貴族的計畫も或は必要かも知れないが、日本に於ては如此計畫よりも山林都市の開拓が緊要であらうと思ふ。上高地にヨセミテが出来、十和田湖にイエロウストーンが出来ても、我々貧乏人は其の恩典に浴することが出来ない。兎も角、之れに依りて一日の歡を樂しみ得る人は極く少數であらうと思はれる。併し之れも特殊の人には必要であり、一種の文化運動なれば無いよりは有つた方が宜からうけれども、苟も社會全般の利害に顧れば、山林都市の建設の方が緊急であらうと思ふ。

我國は他國に比すれば平地が極めて尠い爲に、日本人は土地を惜んで生活に必

要なる土地さへも儉約して居るが、其の代り日本には山林は澤山ある。全面積の約七割は山林と云つても宜しいのである。之を有効に利用して文化を移入することが刻下の急務ではないであらうか。平地は鉸上の如く尠い爲めに其の價は非常に高いけれども山林は之れに反して極めて豊富である爲めに、一括して廣い地面を得るに便利なるのみならず、其の價も亦甚だ低廉である。加ふるに山林に於ては風景も佳く、自然の聲色を味ひ得る所が頗る多く其處には谷の戸出づる鶯の美しき聲も聞え緑り色濃き森の茂りも見られ、其處には又唐紅にくゝられた紅葉の錦も眺められ、涓々たる清き流の音も聞えるのである。此處に都市の敷地を備むることは経済的でもあり、衛生的でもあり文化と天然とを樂しむ上に於ても最も得策であらうと思ふ。

然らば私の所謂山林都市とは如何なるものであるかと云へば卷頭大意に掲げてある様に、田園都市の精神に基いて、山間又は林間に建設せられた一つの理想都市を云ふのである。之を詳しく説明するには先づ以て田園都市なるものはどんなものであるかを説明した方が捷徑である。

此の田園都市を細説するときは餘りに管々しくなるが故に私は唯其の簡單なる信條^{Principles}を述べて、之れに多少の説明を加へるに止めて置き度いと思ふ。然らば其の信條は如何なるものであるかと云へば左の如きものである。

“A Garden City is a Town; designed for healthy living and industry; of a size that makes possible a full measure of social life, but not larger, surrounded by a rural belt; the whole of the land being in public ownership, or held in trust for the Community.”

之を譯せば、田園都市は一つの都市で、其の都市は市民をして衛生的に生活せしめ、衛生的に産業を營ましめんが爲に計畫せられたるもので、社會生活に必要な各種の機關を具備するに適當なる地積を有するもので、然かも廣大ならざるもので、其の周圍は農業地帯を以て圍繞するもので、其の土地の全部は市民の共有なるか、將た其の市民の爲に設けられたる信託會社の所有に屬するものである。

之て田園都市の意義が大體判明する譯であるが、尙之を明白ならしむる爲、左に多少の説明を試み度いと思ふ。

田園都市と云ふものは一つの都市であつて、其處には市役所もあり、學校もあり、

工場もあり、商店もあり、農園もあつて、自ら支持し得る完全なる共同團體なのである。住宅許りて他の都市的機關を持たぬものは、完全な公共團體ではない。従つて田園都市とは稱すべからざるものである。縦令其處に住宅があり、商店があり、工場があつても、何時の結合がなく所謂吳越同舟にて、旅人の寄合世帯の様なもの、眞の都市ではない。眞の都市は最も純なる社會で、各人分業を以て互に相助け、互に相樂しむ所の大きな家庭でなければならぬ。田園都市は實に此の理想を以て生れたもので、其處には都市としての各種の分化機關があつて、共同の目的の爲に其の機能を完全に働かさうとする一つの團體である。而して其の都市は主として如何なる趣意に依りて計畫せられたるものであるかと云ふに第一に衛生的でなければならぬ。第二には産業的でなければならぬと云ふ見地から計畫せられたものである。人間をして生存の價値を發揮せしめ、都市生活をして最も有意義にするには、先づ以て健康を保全にして活動力を養ひ、能く能率を増進せしめて各種の方面に活動する素地を作らねばならぬことは勿論である。其れて田園都市は最も衛生的なる住宅を供給することを目的として居る。其處には充分なる

空地を與へて、新鮮なる空氣と輝々たる日光とを供給する様にして居ることは勿論である。去年人間は生活の資源がなくては生きて居れない。其故に交通に最も便利なる一部分を割愛して工業地域となし、其處に各種の工業を營ましめ様として居るのである。工業のない都市は片輪であつて完全なる都市ではない。田園都市は片輪の都市たらんことを欲しないのみならず、其の工業を最も有効的に働かさうとして居るのである。而して其の都市には社會生活をなすに必要な機關は總て具有して居るので、無論其處には學校も公園も運動場も水道も下水も市場も雜貨店も金物屋も唐物屋も洗濯屋もなければならぬことになつて居るが、併し其の都市は餘り大きいことを欲しない。何となれば都市は大きくなればなるほど不純になつて團結力が弱くなり、所謂善隣とかフレドシップとかシテイズンシップと云ふものはなくなつてしまひ、今日は東區に居るかと思へば明日は西區の人となり、旅の恥は掻き捨てと云ふ考で、市を愛するどころか、何をしても構はぬと云ふ氣になり、自治とか郷黨とか云ふ念は皆目なくなつて、タマニイ黨の爲すが儘になつてしまふ。加之都市が大きくなればなる程惡人や背社會的の人間が

入り込んで貧民窟や魔窟が所々方々に出来て、不衛生となり、不安全となり、不経済となり、戦々兢兢として生活しなければならぬ。田園都市は實に如此不安全な不健全な不経済な都市生活を欲しないが故に、其の人口は三萬か五萬位の程度に止め度いと云ふ希望を有つて居るのである。面積にしても餘り廣くて郊外の景色が減多に見られない様な廣さでは宜しくない。一寸足を運べば郊外の廣々とした自然の景色や田園の趣味をも味ひ得る位の廣さでなければならぬとせられて居る。而して市街の周圍は農業地帯を巡らすことになつて居るが、其の農業地帯は二つの役用を有つて居るのである。其の一は之を市民に貸付けて農耕に親んで自ら新鮮なる食物を得る様に農工を結合し度いと云ふ希望である。其の二は之を以て都市の限界にしようとして居るのである。元來都市の外圍に限界がなく、次ぎ／＼に家屋が増加して何處から何處まで自個の都市であるか分らぬ様になることは、都市の個性を亡くして、自ら自治の精神も愛都心をも失ふ基で、甚だ好ましくないことである。其れて自個の屋敷に垣根を圍はず如く都市にもちやんと境界を明瞭にして置くの必要があるので、田園都市に於ては農業地帯を以て

其の境界を明かにしようとして居るのである。而して田園都市に於ては其の土地は個人の私有を許さない。土地丈けは市民の共有にするか將た市民の爲に設けられた一信託會社の所有にして置くことと云ふのが田園都市の信條であつて現にレツチオーズでもキルキンでも信託會社の土地になつて居る。

山林都市も亦此の信條に従て建設せらるべきものと思つて居るが、唯々少しく異つて居るのは山林都市は必ずしも農業地帯を要しないことである。併し、山林都市は農業地帯の代りに是非とも山林地帯を以て圍繞すべきものにて、換言すれば古代の希臘都市を理想として居るものである。而して其の政治は近代都市の様には争闘的ではなく、中世都市の如く宗教的にあるか、將た市民一同の幸福を基礎とする徳政主義でなければならぬ。而して其處に經營せらるべき工業もポトサンライトの石鹼工場やボンツキールのチョコレート工場の様にはバターナリズムであるか、將た協働主義に立脚したものでなければならぬことは勿論である。商業としても搾取的のものではなく、昔の都市に於けるが如く、生産や消費に密接して、其の間の調和を助くるものでなければならぬが、殊に工業は個人的營利を主

とするものではなく、社會奉仕を念として總ての協調を保ち、楽しく働いて美しく生活するものでなければならぬと思つて居る。然るに論者或は日本の山林は丘陵陵ではなく、多くは山岳の急傾斜地に在るので都市を作るには不便であると云ふかも知れない。實に山間に於ては都市を作るに便利ではないけれども、古代都市は多く山上にあつたのである。希臘のアクロポリスと云ふのは山上の都を意味するのである。北歐のブルグでも同様の意味を持つて居ると云はれて居る。近代に於ては生活よりも産業に重きを置く處から斯様な都市は少いけれども、印度其の他の熱帶地に於てはサナトリウムとか^{サンクトピウス}夏の都市とか云つて、高い山上にすら都會を築造して居るのである。我國に於ても從來温泉場の如きは山間に築かれてある。然かも日本の温泉場は殆んど都市計畫的の注意を拂つてない爲めに山間都市としては一向に價值はないけれども、若し之をランヅケーブアーキテクトの手を借りてうまく街路や家屋を配置したならば、平地都市よりも却つて趣ある都市を築造することが出来るであらうと思ふ。

元來都市の食料は工業であるが、山林に於ては工業の動力を得ることが極めて

容易である。日本在來の都市は概して石炭を得ること容易でない。假令得らるゝにしても其の價格が不廉である。假令今は不廉でないにしても將來は騰貴するのみならず、今に拂底するに違ひない。今日の採炭増加率で行けば七十五億の炭量は百年も経たぬ内に盡きてしまふ。將來の動力は可成石炭を節約して水力に依らねばならぬ。水力の淵源は山林である。其處には電力にコンヴァートするまでもなく豊富な動力を得ることが出来る。之に依りて林産物を原料とする工業は勿論、生絲や絹織物や時計や細貨等の製造工業を起せば、其の都市を養ふだけの要素は立派に備はることと思ふ。更に之を電力に變形すれば電燈も點けられ、電車も廻され、ケーブルカーも動かされ、谷間へに電力の分配も出来、非常な便利な譯である。

乍去外界との交通が不便であつては都市は成立しない。それ故山林都市の敷地は鐵道又は軌道の沿線を選ぶか、將た舟楫の便ある海邊に需むるの要あることは勿論である。若し夫れ、其の敷地が舟楫の便ある海邊に需むることが出来るならば、其の工業は輕量品に限らず、重量品の製造にも適し、非常に便利な譯である。

要するに這種の交通機關を有する所又は有し得べき所に敷地を選び、相當の土地を求むることが必要である。其の面積は一千五百町歩乃至二千町歩もあれば結構である。英國の模範的田園都市たるエルキンは九百七十二町歩でレッチラーズは一千八百町歩であるが、山林都市は田園都市よりも稍廣きを要することゝ思ふ。

如此にして土地を得たならば最も合理的に都市計畫をなさなければならぬは勿論である。先づ以て此等の交通機關と連絡するに最も都合好き地域即ち山間であつたならば停車場附近、海岸であつたならば波止場附近に工業地域を設け、引込線を設くるなり、運河を掘るなりして、其處に前記の工業を纏めることも亦甚だ肝要である。而して其の工場を科學的に配置して住宅の不經濟な混在を許さぬ様にすれば其の面積は幾くとも要らないのである。其の面積は普通の都市に於てすら、總面積の十分の一もあれば澤山であるとせられて居るが故に、田園都市や山林都市に於ては百分の五も要らない位である。

然り而して乗客停車場即ち交通の中心點とも云ふべき地點の附近に商業地域

を劃し、其處に都市的中心を設けるの要あるは勿論である。其の場所は乗客停車場と工業地域との間にも宜しいかも知れないが、工業地域が鐵道線路の東側に在るならば、商業地域は其の反對の西側に置いた方が理想的であらう。其の面積は全面積の百分の一も要らぬ。千分の五もあつたら澤山である。元來都市なるものは支那の都市や我關西都市の如く商店家屋を以て充たされては堪まつたものではない。商業の如き中間機關は可成少きを可とする。其の商業地域の中には都市の中心機關たる市役所や市會議事堂の設置を要することは勿論であるが、其の他に一般市民が何時にても集會を催したり、集合したりする公會堂がなければならぬ。其の公會堂は今日の所謂公會堂の如く演說會や講演會や演藝會場に充てられる許りてなく雨天公園の役目をも勤めねばならぬ。日本の從來の都市は個人個人の烏合に過ぎないので、社交機關は農村よりも缺乏して、本當に都市的機能を發揮することが出来ないが、將來の都市はこんな事では無意義である。都市は各種の人間に社會化の機會を與へることに依りて、文化を助け、都市其の物の存在を有意義にする譯なれば、這種の公會堂は都市に採りて最も必要なものと思

ふ。之は今日の如く特種階級の占有物であつてはならぬ。一般市民のもてなければならぬことは勿論である。一度町に出て買物なり散歩なりした人は一寸其の公會堂に立寄り多くの人に邂逅する機会を作ることは甚だ肝要である。其處には無論音樂堂もなければならぬ。ロハ臺ロハ臺もなければならぬ。喫茶の設備もあれば尙更結構である。大勢の間に座を占めて音樂を聴き乍ら知己と談笑する機会を得ることは、社會人としての人間の性格を研磨研磨して文化を向上する爲めの第一要件である。

其處には又デパートメントストアやバザールの設備も是非とも必要である。此等は各階級の需要を充たすものでなければならぬ。日本の百貨店は概して貴族的のものであつて公衆的でない嫌がある。如此も流行の中心として都市には必要でないことはないが、今少し公衆的のものもなくてはならぬ。其の他に各種の商店を要することは勿論であるが、交通運輸に關する商業は停車場附近に纏めねばならぬ。小賣商店と雜居することは甚だ好ましくない。

山林都市には別にビズイネスクオーターと稱すべき事務所専用の地區は要し

ないだらうと思ふ。然かも此等の事務所も小賣店と混在して菓子屋の隣が保險會社で、唐物屋の隣が銀行で、小間物屋の隣は何々會社の事務所だと云ふことは町の體裁も悪いのみならず、非常に不經濟である。不規律は不經濟の基であればある。故に一階は原則として小賣店舗に用ひ、事務所は可成二階以上に上げる方が宜しからうと思ふ。

商業地域の中には又娛樂の中心を置かねばならぬ。其處には劇場や活動寫眞館や寄席其の他の觀物場を設くるの要あることは論を俟たない。乍去這種の興行は在來式の如く餘りに營利化營利化した俗惡のものは好ましくはないのみならず、却つて有害である。營利と文化とは没交渉の場合が多い。娛樂の如き重要なものを、營利を目的とする興行者に委したと云ふことは大なる間違であつて、先進國の都市改造者の後悔して居る所である。故に山林都市の興行物は文化や教化を旨としたものでなくてはならぬ。市民の素人芝居素人芝居や演藝會等を社會化して一般市民に觀せることなどは最も歓迎する所である。

元來人間は一種の向光動物であるが故に晩食後散歩をするにも餘り暗い處や

寂しい處を好まない。可成明くて賑やかな處を選ぶのである。故に山林都市に於ても是非とも如此場所を要する。商業地域は買物や見物の爲めのみならず、夕刻の散歩の爲めにも相當の設備を要することと思ふ。バーなどは必要ないかも知れないが、最も平民的な喫茶店を設けて音楽を聞き乍ら茶やラムネ位を飲み、晝の疲れを回復する場所も必要であらうと思ふ。

而して其の周圍は大體に於て住居地域となさねばならぬが、谷間谷間に副中心を置き其處には是非とも日用品を販賣する市場を配置しなければならぬ。其の市場はブローカーの集会所ではなく市民と農民との直接交換所となければならぬ。其處には又同方面の集會に充つべき俱樂部位はなくてはならぬ。スケートリンクの様な室内運動場も欲しいものである。

中心と副中心とを連絡する主要道路は地形にして許すならば、其の兩側に限り商業地域として小賣店を比べて其の街路に明るみと興へることも無用ではない。併し之を商業地域とするならば其の間に住宅は介在しない様にしなければならぬ。法律に於ては住宅と商店と混在することは禁じてないけれども、之れは決して

て宜しいことではない。何事も科學的に且つ經濟的に處理するには整格することが最も必要である。住居地域の内に商店の介在することは餘り好しくないが如く商業地域の中に住宅の散在することは互に其の効果を妨ぐる所以て宜しくはない。

而して其の外廓の住居地域の中には文化を目的とする中心がなければならぬ。其處には是非とも圖書館がなくてはならない。若し市の財力が許すならば藝術館や博物館等も欲しいものである。市として一つしかない學校は、矢張り其處に纏めた方が宜しい。小學校や運動場は適當の距離を保ちて所々に配置すべきである。

而して最も恰好な谷間を利用しては其處に野外集會場を造ることも必要である。之を野外劇場や野外競技場に充つれば至極結構であらうと思ふ。山林都市に於ては四圍が悉く公園的になつて居るので特に公園を設くるの必要はない位であるが、併し天然自然も人工と相俟つて一層其の美觀を發揮すべきが故に、山林を開拓しては所々に公園的施設を施すの要あることは勿論である。若し平地

にして充分ならば其處に整形的な公園を造ることも必ずしも不必要ではない。

而して住居地域に於ては地形に應じ合理的の宅地割をなし、其處に宅地に相當する住宅を設けしめねばならぬ。此の場合に於ても整格コイデネーションが必要である。之は街路に美觀を添へる一方法ともなるのである。地區に依りて一定面積に建築すべき家屋の一定數を定め家屋の大小、竝に建築の體裁を整へねばならぬ。而して社會的交際を密接ならしめんが爲め、可成社會的階層を纏むるの要がある。而してレツチアローズやエルキンに於けるが如く工場に通ふ人の爲めには工場に接近する住居地域を割愛しなければならぬことは勿論である。

住宅の敷地は六十坪を最小とし百坪を標準としなければなるまいと思ふ。而して空地の面積は建物面積の二倍を最小とし三倍を標準としなければならぬ。其の空地に於ては各々庭園を造りて花卉を樂しむなり、野菜を作りて新鮮の食料を得ると共に、天然に近づいて土壤に親しむ様にしなければならぬ。

而して住居地域の周圍に相當の平地か緩傾斜地があるならば、英國式田園都市の様に、其處に農業地帯を設定することが最も理想的である。若し如此農業地帯

が得られるならばボンツキールやレツチアローズに於けるが如く、之を市民に貸付けて農耕趣味を養ふの必要がある。乍去日本の山間地方に於ては平地も緩傾斜地も割合に少いので、如此農業地帯を設定するの餘裕はないかも知れぬ。宅地割を犠牲に供してまでも、農業地帯を設くるの必要はない。又急傾斜地を耕作することは、國土保存上好ましからざるが故に、強ひて農業地帯を求むるの要はない。

併し其の代り山林都市の外廓には是非とも山林地帯を設定して山林の經營を樂しましむる様にしなければならぬ。地形の如何に依りては果樹の栽培の如きは最も獎勵すべきである。又日本としては山地を利用して食物を得ることが最も必要なるが故に其處に薇、蕨、筍、葛、片栗、山芋等を作るのも必要である。

兎にも角にも工場や事務所より歸宅すれば、鋤を採りて土地を耕したり花卉や菜果を培養したりするのみならず、山に薪を拾つたり林に茸を採つたりして天然と交つて、工業や事務の疲勞を醫すると共に、山や川の慰藉を受けさせたならば、勞働爭議の如きは起るべき筈もなく、勞力の能率も自ら増進して工業の發展も如何に多大であらうかと思ふ。

如此配置は悉く適當の歩行距離の範圍内に於てするを原則としなければならぬ。而して市内には電車の如き不經濟なものを要しない様にしなければならぬ。世には市内に電車を有することを以て名譽と考へて居るものもあるが、之れはとんでもない間違ひである。都市が不經濟な電車を要する所以のものは都市の不秩序を證明するもので、總ての配置が科學的に整列せられたならば、如此危険物は必要がないのである。總てが適當の歩行距離に配置せられて、日々工場に通ふにも事務所に行くにも十五分か二十分位外氣を呼吸して、歩いて行く様にしたならば、衝突の虞もなく、病氣傳染の憂もなく、衛生的で保安的で且つ經濟的な譯である。

而して其處に建てらるべき建築物は從來の日本都市に於けるが如く雜駁なものでは甚だ困る。デザイン不^{デザイン}同は進歩の母と云ふけれども意義なき不同は却つて進歩を妨げ美觀を損するのみならず、頗る不經濟である。其中特殊建築物は一定の規定を超えて之を羈束することは甚だ面白くないけれども、普通の住宅又商店は格を整へて等級毎に標準を設け、之にスタンダード準據せしめねばならぬ。銘々思ひ思ひに

建築するときには費用が嵩む許りて決して近代的ではない。昔の様に餘裕を以て家屋を建てた時代は個人的趣味に基いて、勝手に設計して建て、も文句はなくやれ石撞きだ、やれ棟上げだと云つて一生一代の祝儀の様に大騒ぎして、無駄に金を使つて構まつたことはなく、今日に於ても富豪階級は昔の様に勝手に數奇を凝らしても、差問へはなからうけれども、家屋の大多數は人間生活の必需品であつて贅澤品ではない。如何なる貧民と雖も家族五人あれば十坪の居室は要るのである。之れに臺所其の他の附屬室を加ふれば十五六坪は何んとしても必要である。此の坪數は文化も向上も意味しない最小限度なので、苟も人間をして意義ある生活を營ましめんとするならば少くとも二十坪は必要であらうと思ふ。更に人間として人間らしい生活をなすには一人に付三坪乃至四坪は必要なのである。而して家族として生活するには其の數に依りて、所要室數に於て多少の差異ある譯であるが、それにしても是非とも必要な室數は自ら決定して居る譯である。實に家庭としては茶の間、食堂、客間、書齋等の爲めに何んと儉約しても二室は要する。其の外に夫婦限りの家族ならば寢室として更に一室を要する。子供があれば二室

を要し、更に舅姑があれば三室を要し、其の上空室スカムが今一室あれば誠に好都合である。兎も角労働者であらうが俸給生活者であらうが人間が人間として人間相當の家庭を作り、人間として意義ある生活をなさんとすれば五六室は必要であると認められて居るのである。ポルトサレライトやボンツキールの職工宿舎の如きも皆此の標準に従つて作られて居るのである。

各室の面積も區々にては困る。自ら最小限度もあり、標準もなければならぬ。西洋に於ては夫々研究せられて居るが、日本に於てもちやんと其の標準を決定すべきである。

斯くて其の標準に従つて家屋も機械にて製造すれば、うんと安く出来るだらうと思ふ。今日の家屋の建築は印度人の寶石細工の様なもの、手にてこつ／＼作られるのみならず、注文主に依りて價が異つて引受け得る高價格で建てられて居るので、安く出来る筈はない。人間生活の必要物件が猶太人の中古商買や縁日の植木賣買の様に取扱はれて堪まつたものではない。

殊に住宅は同じ必要物件でも食料や衣服などは趣を異にして、肉體よりも精

神に影響を與ふること非常に多く、徳義品性、趣味の如きは家屋の感化を受くること尠くはなく、勉強、整理、清潔、經濟的觀念の如きは家屋の構造に依りて一大影響を受け、其の設計が悪ければ勉強も出來ず、整理も付かず、清潔も自然に不衛生不經濟となり、家屋が宜しければ其の精神も自ら教化せられて文化的になることは今更吾人の喋々を俟たぬ所である。

家屋は實に如此人間生活に採りては必要にして且つ重要なものなれば昔の大名は家を建てて我々に貸して呉れた。今でも殖民地に於ては官舎制度や社宅制度があつて使用人の爲めに便宜を與へて居るが、山林都市の事業家も須く此方法を採るべきである。然かも在來の組織でこつ／＼細工をして居つては低廉なる家屋を得ること困難なるが故に、之れは山林都市を經營するものが其の副業として建築事業を營むか、將た特別の建物會社を立て、機械を以て煉瓦其の他の建築材を造り、機械的に家屋を建築せしむるの方法を採らなければならぬことと思ふ。

如此設想の下に各地區の土地の利用法が定まつたならば、街路系統を計畫して街路を築造しなければならぬことは勿論である。從來の自由放任主義の都市計

畫に於ては土地の利用法も何も定めず、矢鱈に街路を計畫した時代もあり、今日に於ても尙ほ何等の目的なしに用器畫を描くが如き心持にて街路計畫をなしつゝあるものもある様に見受けられるが、之れは目論見なしに家を建て、家が出來てから、座敷や臺所を定める様なものにて、飛んでもない間違ひである。近代的都市計畫に於ては、先づ土地の利用法を定めて、然る後に街路計畫に取り掛るを原則とする。山林都市に於ては特に其の必要を認めるのである。此の原則を知らぬ人は街路計畫のみを急ぎ、街路計畫が即ち都市計畫だと思つて居る傾がある。之れ土地の利用は所有者の自由である、街路計畫丈けが國家なり公共團體のなすべき事業であると云ふレザニアの思想から胚胎したもので、近代の都市生活即ち協同生活の意義を解せない爲めに起つた結果であらうが、斯くては土地の利用計畫と街路計畫とは常に調和せず、不經濟之れより甚しいものはない。山林都市に於ては決して如此不調和も不經濟も許さんのである。

山林都市に於て街路系統を立するには、先づ以て其の地形に基き其の高低に従つて適當の計畫を立てねばならぬ。平地都市の街路を畫する様な態度で立案せ

られては、折角の天然自然も臺なしである。若し夫れ吾人の所謂山林都市に於て海濱又は谷間に沿ひて多少の平地が得られる様ならば其の平地を限り格子形式グリッド・システムの道路を作ることは悪くはないけれども、四圍の山容や公館の配置を顧みずして強ひて此の式を徹底せしめて、不調和を來たすことは決して宜しくはない。日本に於て新たに都市を計畫するときは、奈良朝の昔から耕地整理の様に、四角四面の街廓を作りて、矢鱈に直線を配合して居るが、之れは都市美や街路美を解せぬ爲めの間違ひにて決して悦ぶべきことではない。街路なるものは道路と異り、沿道に建築物が建並んで居るものである以上、飽まで其の眺望を考慮すべきであるが、日本都市の街路は電柱の行列を見る丈けにて、些の美觀を與へないので、ツイ街路も道路も同じ様に考へて、所嫌はず直線を使用して居るのは残念なことである。併し平地であり、商業地域であり、極端に長い直線でなければ格子形も亦た便利である。若し格子形とするならば、各ブロックは可成東西に長く南北に短かくして、孰れの家屋も能く日光に當たる様にしなければならぬは勿論である。乍併紐育や京都の如く街路もブロックも餘りに單調で差等のないのは、周圍其物が藝術的な山林

都市に於ては最も厭ふべきことと思ふ。而して平地以外は何んとしても集^{コンセンストレーション}中式となるであらうが、二式の接合點には圓形又は楕圓廣場を配置して、竹に木を接いだ様な不自然のない様にしなければならぬことと思ふ。傾斜地に於ては格子形式は全く感服出来ぬ。如此地形に於ては大體集中式を採るべきであらうと思ふ。處に依りて斜線式を採るも已むを得ないが、矢鱈に此の式を採るのは戒しむべきである。街路計畫をなすものは往々にして巴里式に倣ひ無暗に對角街路を畫いたり、放火街路を造りたがるが、之れは西洋に於ては兎も角日本に於ては甚だ宜しくないことと思ふ。這種の街路は稀には必要である。平地に於て中心を作つたり中心と中心とを連絡する場合には是非とも必要であるけれども之を濫用されては堪つたものではない。這種の街路は主として交通の便利と云ふ所から出來たものであらうが、都市は交通の便利に依つてのみ計畫せらるべきものではない。交通の便利のみを考へて、都市を計畫した時代は最早過ぎ去つてしまつた。之れは十九世紀の功利主義萬能時代のことにて二十世紀以後の都市は人道の上から活動^{ヴァイタリティー}の保存や生活の安全や感情の向上と云ふ所から計畫せられなければ

ならない。殊に山林都市の如きは之を主要の目的としなければならぬので、交通の便利の如きは二の次である。

されば山林都市に於ては、這種の街路の爲めに家屋が變な方角に向ひて日當りが悪くなつたり、三角形の家屋が出來て住みにくくなることは決して望ましくない。西洋人は其の三角形をうまく利用する方法を講じて居るが、日本人は之れが不可能である。日本人の性格としては大體に於て三角形殊に銳角を好まない。三角の室は物置にも適しない。我々の所持品にて三角な物は定規位なものにて其の外は圓いものでなければ大方四角である。細胞を顧みずして妄りに骨格を仕組まれては堪まつたものではない。さりとて這種の街路に沿ひ數多の三角形のプロットが利用せられずに残つて居るのを見るのも餘り氣色の宜いことではない。要するに如此無用の眞似事はしない方が増してある。

惟ふに山林都市の街路計畫はランズケイブアーキテクチュアの範圍に屬して居るが、其れにしても整形的ではなく、不整形の方が宜しからうと思ふ。私は普通の都市計畫に於てもローマンテイシズムを好むものであるが、山林都市に於ては

之が最も必要であらうと思ふ。其の系統は大體高低に従ひ楓葉の葉脈狀に計畫しなければならぬことと思ふ。而して可成堀割つたり切崩したりしない様にし度いものである。假令之を行つても餘り不自然でない様に天然の美形を損はない様にすることが肝要である。

而して山間に於ては原則として中央に溪川が流れて居るであらうが、若し之に沿ひて街路が開かれるものとすれば、主要街路に限り複線式を採つて溪川の一方に主要の街路があるならば、他方に於ても之れと同格の街路があつた方が宜しからうと思ふ。而して其の二街路が谷間谷間の副中心に於て會合する様に花輪狀に計畫したら宜しからうと思ふ。之れも地形を顧慮せず強ひてやることは宜しくないが、若し出来るものならシムメトリックになつて居つた方が萬事都合好くはないかと思ふ。若し夫れ斯くの如く市民の多く集合する所から複線式を採つたならば交通を整理する上に於ても便利であり、混雑と單調からも免れることが出来る。

人口が幾萬あつても主要街路が單線の場合は市街が單調で薄つべらな様に感

ぜられる。而して多くの場合は路幅が郊外も市中も同一な爲めに時として非常に混雑を來たすのみならず、連日往復する者に採りては退屈を覺へしむることが多いのである。町に出ても同じ道を往復することは氣の利かぬ一つである。散歩に出ても同じ道を出ても同じ道を往復することは氣の利かぬ一つである。散歩に出ても同じ道を往復することは愉快を冷却する傾がある。今日の學問は何んでも心理學的色彩を帯びて來たが、都市計畫の如きも之れを考慮せずに、完全に出来るものになからうと思ふ。殊に山林都市を造るには街路を計畫するにも能く人間の心理を基礎として計畫しなければならぬことと思ふ。

二等三等の街路は此の主要街路より葉脈狀に分岐せしめて夫れ夫れ連絡する様にしなければならぬが、之れは地形や高低に應じ、千差萬別でなければならぬ、其れにしても各街路は孰れも車の通れる様に緩勾配にしなければならぬことは勿論である。併し之れが爲めに迂路を辿らねばならぬことが多い。之を防ぐには所々に細い階段道路を造りて、上下道の連絡を講ずることも必要ではない。

而して市街地の外廓に在る山林地帯に於ては全體を周遊し得る様に是非とも

輪環街路を設けなければならぬ。之れも内輪と外輪と二重なれば一番宜しいだらうと思ふ。

之等の街路は山林都市に相當する標準を定めなければならぬことは勿論である。街路は山林都市に於ても原則として歩道車道の區別はなくてはならぬ。車道は主要街路に在りては片側三線を單位とし全體にて六線としなければならぬと思ふ。速力の等しからざる車輛が同一街路を通行することは宜しくないかも知れないが、同じ高速度の車でも時として追ひ越す必要のあることがある。故に二線はどうしても必要である。此の上交通の頻繁なる處には停車に備ふる爲めにもう一線を保留するの要がある。最も山林都市には電車はないが電気自動車はあるものと見なければならぬ。電気は自動車燃料節約上我國に於て最も必要であるのみならず、山林都市には最も適當なものなればである。乍去二等街路の車道は片側二線合計四線にて事足るべく三等街路の夫れは回轉の出来る程度又は一線づゝ二線にても宜しいだらうと思ふ。

歩道は主要街路に於ては列樹やポール地帯を除き、矢張り三線づゝ六線を要す

るものと思ふ。歩道二條あれば十二線になる譯である。二等街路に於ては二線づゝ四線、三等街路に於ては少くとも合計三線を必要とする。六尺以下の歩道は傘を差せば二人並んで歩くことも出来ず、他人に出會つたら車道に降りなければならず、全く無意味なればである。此の計算は車の一線を入尺乃至九尺、人の一線を二尺とする標準を前提とするものにて、其の路幅は有效幅員のみを意味するものなるが故に、地上架設物がありとすれば其の幅員は更に増加せざるべからざることとは勿論である。要するに市街の中には地域地區の状態に應じ車の多く通る道路と、人の多く歩く道路とがあるので、車道は二等街路の規準に依るも、歩道は三等道路の標準に従ふべきものもあり、車道として三等街路でも、歩道として二等街路たるべきものがある。されば標準を定むるには豫め細心の注意を以て諸種の標準を定めねばならぬことは勿論である。而して其の街路はプロットの面積に鑑みて甘く整調^{コイルブレイク}してプロットが小さいのに大きな街路を作つたり、プロットが大きいのに街路が狭かつたりする様なことのない様にしたいものである。而して街路は原則として舗装を要するものと思ふが、全體に亘りて舗装が叶は

なければ、せめて主要街路なりとも舗装を施したら宜しからうと思ふ。

要するに山林都市は人道や社會改良の見地から、最も衛生的に最も安全に、最も便利に最も愉快に最も經濟的に、最も文化的ならしむる爲め、最も合理的に建設しなければならぬことと思ふ。然らば之を如何にして造るかと云ふ質問も出るであらう。其の方法としては英國に於て田園都市を作つて居るが如く、信託會社を興して建設することも一策であるが、日本に於ては單に此の目的丈けにては容易に實行し難い所であらうと思ふ。

惟ふに都市は工業を離れて生存し難きが如く、山林都市の建設も工業家を離れては成立すまいと思ふ。我觀を以てせば工業家を中心として、此の計畫を進めるのが一番捷逕であらうと思ふ。職工を五六千人も使用する工場ならば、一場にても人口四五萬を抱擁する都市が必要なのである。一千人づゝ使用する工場が五つもあれば矢張り同様である。山林都市としては二三種の工業に依頼することとは好まぬ所であるが、五六の大工業會社を中心として這種の新都市を造ることは必ずしも困難ではあるまいと思ふ。臺灣其の他の殖民地に於ては大會社は原

則として、社員や勞働者の爲めに社宅なるものを供給して居る。内地に於ても都市を離れて事業を經營するときは社宅を供給して居るものもある。鑛山の如きは其の最も顯著なる例である。之れは工業の科學的經營の見地から來たものでもなく、幸福増進策から來たものでもなく、唯事業上已むべからざるより出でたるものには相違ないけれども、如此は事業上最も必要なるものである。將來の工業家は在來式經營法に依頼して居つてはうまく工業の發展を期待することは出来ない。科學的經營法を採用して先進國に於けるが如く、勞働コロニーを作ると同時に工業都市を作るの覺悟を持たねばならぬ。近時歐米に於ては工業のエキゾーダスとかエスケープとか云つてイスラエル人が埃及より脱出したるが如く、大都市から逃出す傾向がある。今日の如く所謂大都市なるものが、膨脹に繼ぐに膨脹を以てし、不秩序、混亂、雜踏を來たし、品川の人が本所の工場に通ひ、本所の人が王子の工場に通ひ、千住の人が品川の工場に通ふ様になつて、無益に時と金を消費して居つたならば、何もかも貴くなつて、工業夫れ自身も不經濟になるに極つて居るのである。殊に都市の土地は無制限に暴騰して、工業の侵入を防禦して居るの

みならず地主達は矢鱈に土地投機を行ひ、工業驅逐策を採つて居るので、我國に於ても早晚工業は大都市から脱出したり、大都市から遠く離るゝことゝなるであらうと思ふ。されば將來の大工業家は能く此の趨勢を洞察して、工業經營の爲めの理想都市を築くの覺悟がなければならぬ。之れは工業夫れ自身の爲めにも利益なるが故に、工業家自身之を企てゝも宜しいことであるが、然かも之れが資本の利用上、本業以外に多大の資本を投下すること出来ぬならば、社會改良家其の他の人々と協同して、別に都市經營の會社か將た公益法人を設立しても宜い譯である。併し我觀を以てせば工業家を中心として株式を募集し之に依りて、都市經營會社を興し營利を主とせず、工業従事者の能率増進を目的として、工業的山林都市を建設することにしたならば、最も便宜であらうと思ふ。然らば如此都市を何處に作るかと云ふことが、従つて起るべき問題であらうが之れは大都市に關係なく、單獨に建設する場合と大都市の衛星都市として作る場合と自ら多少の相違がある。單獨に建設する場合は比較的に廣く其の地位を選定すること出来るけれども、衛星都市として建設する場合は大都市を距ること二三十哩の圏内に之を求めねばな

らぬ。其の地位は前に略述した原則に基いて、選定しなければならぬことゝ思ふが、扱て具體的に何處が適地であるかと云ふことは實地調査をした後でなければ困難である。併し、東海道線に沿ひ單獨に這種の都市を建設するとしたならば、大磯より山北までの丘陵地方や箱根附近は好適の地方であらう。富士紡績の小山工場の所在地は私の所謂山林都市の建設地として理想的のものである。同會社は同工場を中心として地主組合を作り、其處に築庭的都市計畫を行ふと同時に、都市的設備を施してくれたならば獨り其の工場の利益のみではなく、一般社會の公益となるであらうと思ふ。御殿場より三島に至るの間にも適地が澤山之れある様に見受けられる。岩淵附近も良さそうに思ふ。大井川の下流に在る牧野原の中にも適地を發見することが出来はせぬかと思はれる。濱名湖の沿岸も地形より見れば頗る良好である。蒲郡、大府附近に於ても、なくてはならぬ所と思ふ。東京の衛星都市としては横濱、八王子間の丘陵地方、大山界限より青梅附近に至る山麓地方、青梅より鴻巣附近に至る丘陵地方は輪換鐵道だに布設せられたならば好箇の適地となるであらう。習志野、氣賀沼、印幡沼間の丘陵地方に於ても交通機關

さへ整へば必ずしも適地を求め難いことはなからうと思ふ。大阪の衛星都市としては武庫川、池田川の上流地方や、泉南の海岸地方や、紀伊川の流域に於て適地を相することが出来るかも知れないが、さなきだに人口過密で功利主義の旺盛なる地方の事として、如此適地を手に入れ得るや否やは甚だ不確である。其れにしても、大々大阪を作り此の上人口を積集して、國民の墓地を擴げるよりは、曲りなりにも、這種の計畫に基いて人口のデセントラリゼイションを企てた方が國家の爲めにも社會の爲めにも得策であらうと思ふ。

要するに其の地位は更に精細なる調査を遂げた後にあらざれば確定する能はざるは勿論であるが、兎も角如此計畫に基いて、山林都市を作つたならば、山林の中に住んで居つても、自ら文明の恩澤を蒙り、諸種の都市的娛樂も得られ、而して従來の都市の害毒から免れるのみならず、永へに天地自然の美なる感情をも樂しむことも出来、何人も低廉に文化生活を營むことが出来るであらうと思ふ。

若し夫れ、斯くの如く、其の市民が各々意義ある生活を營むことが出来たならば、頭腦も健康も自ら改善せられ、工業の如きも科學的經營の本旨に適ひ、最も圓滿に

發達して勞働爭議の如きは決して起らぬであらうと思ふ。如此にして都市の營養たる工業が進めば其の都市としても完全に發達しない理由はない。故に私は現在の都市生活に惱める人や、社會改良家や、工業の科學的經營者に向つて切に山林都市の築造を勸むるものである。(終)

7/30/10



終